

CL3884NW

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CL3884NW 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2021 年 1 月 5 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②型番 CL からはじまる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	3年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- 本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行いますが、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対する保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC に関する情報.....	5
RoHS.....	5
安全にお使い頂くために.....	6
全般	6
ラックマウント	8
同梱品.....	9
本マニュアルについて.....	10
マニュアル表記について.....	11
第1章 はじめに.....	12
概要	12
特長.....	13
システム要件.....	15
ケーブル	15
OS.....	15
製品各部名称	16
CL3884NW フロントパネル	16
CL3884NW リアパネル	19
第2章 セットアップ方法.....	20
セットアップの前に.....	20
ラックマウントキットを使った取付方法	22
延伸ブラケットの取付方法.....	24
イージーセットアップラックマウントキットを使った取付方法	26
製品本体の接地	26
単体使用時のセットアップ方法.....	27
ケーブル接続図.....	29
KVM ケーブルの接続図.....	29
カスケード接続	30
接続図(2段階カスケード接続の場合)	31

第 3 章 基本操作	33
コンソールの開閉	33
操作上の注意事項	37
電源 OFF と再起動	38
ホットプラグ	38
KVM ポートのホットプラグ	38
LCD OSD 設定	39
LCD ボタン	39
LCD の調整設定.....	40
ソースデバイスの識別	41
ポート ID の付番とポートの選択	42
ポート ID の付番	42
ポートの選択	42
切替操作	43
ポートの手動切替.....	43
ホットキーによる切替.....	43
OSD による切替	45
マルチスクリーンコントロール	46
表示モード	47
フルスクリーン	47
クワッドビュー.....	49
ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル.....	51
ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル.....	53
ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド	55
ピクチャ・オン・ピクチャ.....	57
ピクチャ・バイ・ピクチャ - デュアル	59
ピクチャ・バイ・ピクチャ - トリプル	61
ピクチャ・バイ・ピクチャ - クワッド.....	63
プリセット設定	65
表示モード	67
第 4 章 OSD の操作	68
OSD の概要	68
OSD へのログイン.....	68
クイックアクセスツールバー	70
エディターモード	71
OSD メニュー	73

パスワード保護	73
OSD メイン画面.....	74
第 5 章 キーボードによるポート操作.....	87
ホットキーによるポート操作.....	87
ホットキーモードの起動.....	88
専用起動キー	88
[Num Lock]キーと[-]キーの組み合わせ.....	88
アクティブポートの選択.....	90
オートスキャンモード	91
オートスキャン - 表示モード.....	91
コンピューターのキーボード/マウス/USB デバイスのリセット.....	92
ホットキービープ音の ON/OFF 設定	93
ポート OS の設定	93
ブロードキャストモードの設定	94
ホットキー一覧表.....	95
第 6 章 キーボードエミュレーション	101
Mac キーボード.....	101
Sun キーボード	102
第 7 章 RS-232C による操作	103
概要.....	103
セットアップ.....	103
RS-232C コマンド	105
コマンドの入力確認	105
ログイン	106
ログアウト.....	107
RS-232C リンクのオープン/クローズ	108
ポートの切替.....	109
PiP モード	110
クワッドビューモード.....	111
表示モードの変更	112
ポートの無効化.....	114
OSD 言語	115
キーボード言語レイアウト.....	116
OS の設定	117
オートスキャン.....	118
ポート ID の設定	119

セキュリティ	120
キーボードエミュレーション	121
ビデオダイナシク	122
ハードウェアカーソル	123
ビープ音の出力設定	124
ホットキーの設定	125
OSD ホットキー	126
電源状態検知機能	127
ファンクションキー	128
USB のリセット	129
デフォルト値のリストア	130
ファームウェアのアップグレード	131
KVM の状態確認	132
ホットキー一覧	133
バージョン情報	134
第 8 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティ	135
はじめに	135
バックアップ/リストア	140
アップグレードに失敗したら	143
電源 OFF と再起動	144
デフォルト設定のリストア	144
付録	145
製品仕様	145
接続表	148
CL3884NW に互換性のある 4 ポート KVM スイッチを接続した場合	148
対応 KVM スイッチ	148
OSD の工場出荷時における初期設定一覧	149
トラブルシューティング	150
ファンクションキー一覧	152

EMC に関する情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉を発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品を居住環境で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックにて LCD KVM ドロワーより上のマウント場所にケーブルマネジメントなどの前面に突出している物を取り付ける場合、LCD KVM ドロワーの液晶部分が干渉して、使用に適さない角度までしか開かない可能性があります。そのため、ご使用前に十分な空間や間隔が確保できているかご確認ください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80% を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:** ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを棚や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

CL3884NW 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL3884NW 4ポート USB HDMI マルチビューワイドスクリーン LCD KVM ドロワー (デュアルスライド対応) ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット (ショート or ロング) ×1
- ◆ KVM ケーブル (USB、HDMI、オーディオ) (1.8m) ×2
- ◆ 延伸ブラケット ×2*
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

※イージーセットアップラックマウントキットとは併用できません。

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL3884NW に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに:CL3884NW を紹介します。特長、機能概要やメリット、また、製品各部名称について説明します。

第2章 ハードウェアのセットアップ:CL3884NW のセットアップについて説明します。単体で使用する場合に加え、2 段階のカスケード接続で最大 16 台のコンピューターを使用する機器構成のセットアップ方法についても、必要な手順を提供します。

第3章 基本操作:CL3884NW の基本的な操作方法について説明します。

第4章 OSD の操作:CL3884NW の OSD (オンスクリーンディスプレイ)の説明と操作方法について詳しく説明します。

第5章 キーボードによるポート操作:CL3884NW のシステムにおけるホットキーを使った操作方法について説明します。

第6章 キーボードエミュレーション:PC 互換キーボードから Mac キーボードや Sun キーボードにエミュレーションする機能について、対応表を用いて説明します。

第7章 RS-232C による操作:シリアルコントローラーを使って CL3884NW を制御する際に使うことができる機能と RS-232C コマンドについて詳しく説明します。

第8章 ファームウェアアップグレード:お使いの CL3884NW のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

CL3884NW は、18.5 インチ LED バックライト付き LCD モニター、キーボード、およびタッチパッドを、システムラックの 1U サイズでマウント可能なスライドハウジングに統合することにより、省スペースを実現し、効率的なソリューションを提供します。デュアルスライド構造により、LCD モニター、キーボード、およびタッチパッドを互いに独立して動作させることが可能となります。この構造は、下部のキーボード&タッチパッドモジュールをラックに収納し、上部の LCD モジュールのみを起こして画面を表示できるので、モニタリングに便利な上に、スペースを有効活用できます。

CL3884NW は、リアルタイム監視機能が行えるようデュアルコンソール出力を備えています。両方の出力で、クワッドビュー、ピクチャ・イン・ピクチャ (PiP)、ピクチャ・バイ・ピクチャ (PbP)、ピクチャ・オン・ピクチャ (PoP) といった各種表示モードが制御できます。表示モードにはさまざまなレイアウトオプションがあり、表示するソースをカスタマイズできます。さらに、CL3884NW は最大 2 段階のカスケード接続に対応しているため、最大 16 系統のビデオソースを表示/制御することができます。これらのビデオソースは、独立したキーボードとマウスで同時に表示したり制御したりすることができます。

CL3884NW では、マウスポインターをディスプレイの境目を越えて隣のディスプレイに移動するだけで、操作するコンピューターを切り替えることができます。また、特許取得済みの ATEN テクノロジーであるビデオダイナシンク (Video DynaSync™) を使用すると、ユーザーはより優れたディスプレイ解像度とシステム間的高速切替を楽しむことができます。さらに、EDID モードは、スムーズな電源投入と高品質の表示を実現できるため、モニターの相性問題を解消することができます。

これ以外にも、便利な機能として、ユーザーは必要であれば、セカンドコンソールからコンピューターを管理することもできます。CL3884NW には、本体フロントパネルの USB 周辺機器ポート、リアパネルのセカンド KVM コンソール (USB キーボード/マウス/HDMI モニター) 用ポート、オーディオスピーカー接続用のオーディオポートがあります。

CL3884NW は、機能豊富な LCD KVM スイッチとして、スペース効率の最適化、優れたビデオ品質、環境に適した配置、および操作の汎用性といった要件を満たすだけでなく、スペースの有効かつ効率的な使用が求められる、あらゆる業界のコントロールルームに理想的な製品です。

特長

【信頼性と操作の多様性】

- ◆ マルチビューコンソールでは、クワッドビュー、ピクチャ・イン・ピクチャ (PiP)、ピクチャ・バイ・ピクチャ (PbP)、ピクチャ・オン・ピクチャ (PoP) などの表示モードを使用して、最大 4 系統のビデオソースを 1 つの画面に表示可能
- ◆ クイックアクセスツールバー - 編集用の直感的なユーザーインターフェース
- ◆ 最大 2 台のコンソールディスプレイを USB/HDMI コネクタを経由で接続できるセカンドコンソールに対応※1
- ◆ 表示モードのレイアウトはカスタマイズ可能
- ◆ 解像度 - 1920×1080@60Hz
- ◆ コンピューターの切替方法 - プッシュボタン、ホットキー、OSD、RS-232C コマンド
- ◆ マルチスクリーンコントロール機能 (Boundless Switching) - マウスカーソルをウィンドウ間で移動させるだけで、他のビデオソースに切替可能
- ◆ ビデオダイナシンク機能 (Video DynaSync™) - 起動時のディスプレイの問題を解消し、異なるソース間での切替時の解像度を最適化する ATEN 独自のテクノロジー
- ◆ PiP または PbP のサイズやレイアウトは、ユーザーのニーズに合わせて簡単に変更可能
- ◆ EDID エキスパート (エミュレーション機能) - スムーズな電源投入、高品質表示、異なる画面で最大のビデオ解像度を使用するために最適な EDID 設定を選択
- ◆ 最大 2 段階のカスケード接続 - 最大 16 台のコンピューターを操作可能 (最大 4×4 のマルチビューモード)
- ◆ オートスキャン機能搭載 - ユーザーが選択したサーバーのみを対象に監視
- ◆ ブロードキャストモード - すべてのサーバーに対してコマンドを一斉送信し、同一の操作を同時に実行
- ◆ ホットプラグ対応 USB 周辺機器ポートをフロントパネルに追加

注意: 1. 両方の出力で、マルチビュー表示モードを同時に組み合わせることができます。ただし、フルスクリーンモードに設定することはできるのは 2 つの出力のうち、片方だけです。

【スペースの有効活用】

- ◆ LED ライト搭載 - 手元が暗い場合でもキーボードやタッチパッドの操作が可能

- ◆ LED バックライト付き 18.5 インチワイド画面 LCD 一体型コンソールドロワー - デュアルスライドの構造を採用し、上下に空間を作ることで、高さ 1U のシステムラックにおいて快適なコンソール操作環境を提供
- ◆ デュアルスライド構造 - LCD パネル、キーボード&タッチパッドパネルは個別にスライド可能
- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロック

【柔軟なセットアップ】

- ◆ ラックマウントキット同梱
- ◆ イージーセットアップ・ラックマウントキット対応
- ◆ ソフトウェア不要
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ ホットプラグ対応

システム要件

CL3884NW システムのセットアップに必要なデバイス、機器、およびケーブルは下表を参照してください。

	CL3884NW
セカンドコンソール (オプション)	<ul style="list-style-type: none">◆ HDMI モニターおよび HDMI ケーブル×各 1◆ USB マウス×1◆ USB キーボード×1◆ スピーカー×1
コンピューター	各コンピューター ^{*1} には、次のハードウェア環境が必要です。 <ul style="list-style-type: none">◆ HDMI ポート^{*2}×1◆ USB Type-B ポート×1◆ スピーカー×1
ケーブル	<ul style="list-style-type: none">◆ KVM ケーブル (HDMI、3.5mm オーディオジャック、USB Type-B (USB 2.0 対応))×1◆ 電源ケーブル×1

注意:

1. コンピューターの OS がサポート対象であるかどうか、ご確認ください。詳細は p.15「OS」を参照してください。
2. 表示出力の品質は、コンピューターのグラフィックカードの品質に影響されます。弊社では高品質な製品の使用を推奨します。

ケーブル

品質不良のケーブルは、接続デバイスの破損やシステム全体の性能低下の原因になるおそれがあります。最適な信号の整合性やシンプルなレイアウトを維持できるよう、下表に記載された各種ケーブル長の高品質専用ケーブルの使用を推奨します。これらのケーブルは販売店からお求めいただけます。

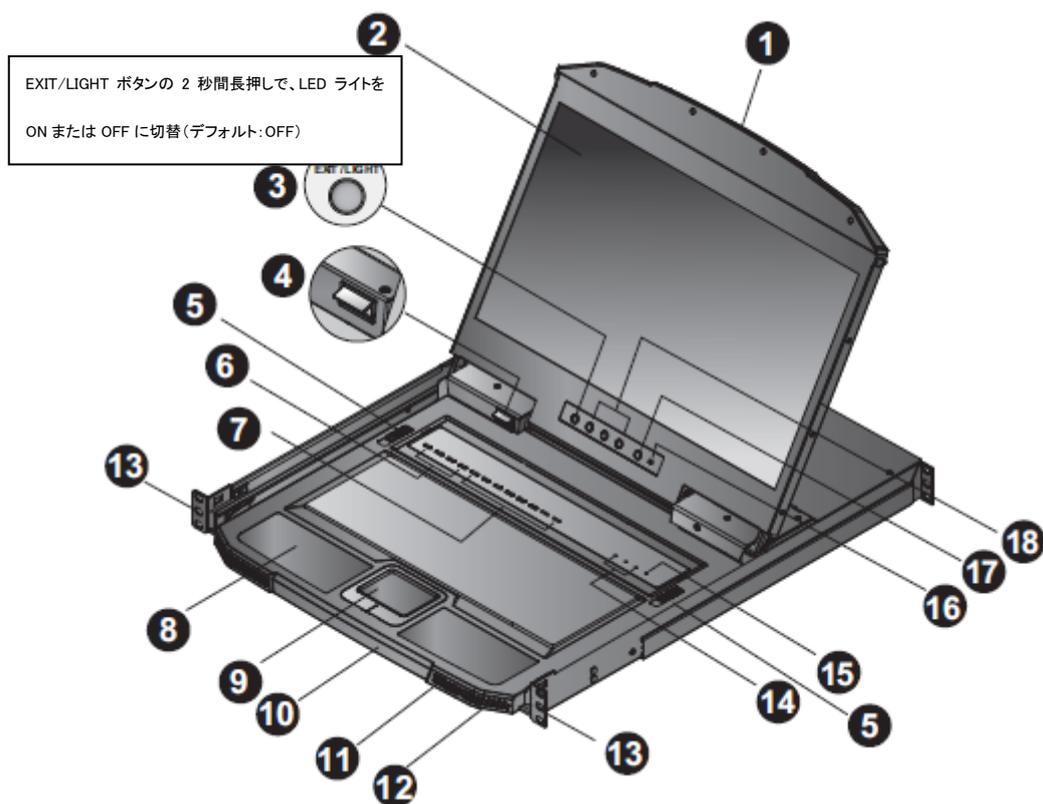
機能	ケーブル長 (m)	タイプ	型番
KVM スイッチとコンピューターの接続	1.8	USB、HDMI	2L-7D02UH

OS

CL3884NW の対応 OS は、Windows、Mac、Linux、Sun です。

製品各部名称

CL3884NW フロントパネル

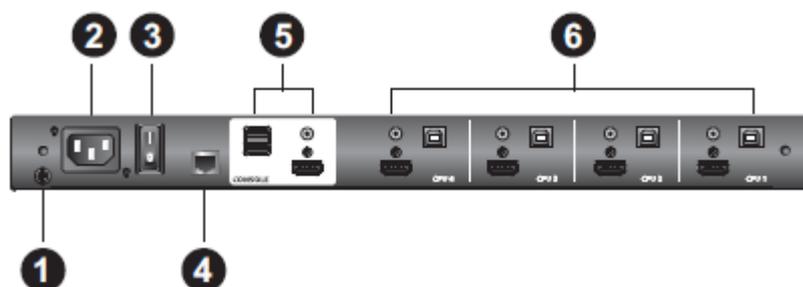


No.	名称	説明
1	上部ハンドル (リリースバー付属)	LCD モジュールを引き出す、または中へ収納する際に使用します。コンソールの出し入れについての詳細は p.33「コンソールの開閉」を参照してください。
2	LCD モジュール	LCD モジュールを引き出した後、カバーを開けてハンドルを起こすと LCD ディスプレイが使用できます。この表の項目 1 も参照してください。
3	LED イルミネーション ライトボタン	EXIT/LIGHT ボタンを 2 秒間長押しすると、LED ライトを ON または OFF に切り替えます(デフォルト:OFF)。
4	LED イルミネーション ライト	このライトを点灯すると、手元が暗い場合でもキーボードやタッチパッドが照らされて操作しやすくなります。
5	キーボードモジュール リリース	この留め金(左右各 1 箇所)は、コンソールを引き出せるようにロックの解除を行うものです。
6	CPU ポート選択ボタン /LED	<p>CPU ポート選択ボタンを押すと、そのボタンに対応したポートに接続されているコンピューターの KVM を選択します。</p> <p>オレンジのオンライン LED が点灯すると、そのポートに接続されているコンピューターに電源が入っており、稼働していることを表します。また、グリーンの選択 LED が点灯すると、そのポートに接続されているコンピューターの KVM 操作が選択されていることを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ カスケード接続の機器構成では、CPU ポート選択ボタンを押すと、対応する 2 段階目の KVMP スイッチのコンソール画面に切り替えます。 ◆ CPU ポート選択ボタンの 1 と 2 を同時に 2 秒間長押しすると、コンソールのキーボードとマウスを再検出します。 ◆ CPU ポート選択ボタンの 3 と 4 を同時に 2 秒間長押しすると、オートスキャンモードを開始します。詳細は、p.91「オートスキャンモード」を参照してください。
7	マルチビューモード & 表示モード ボタン/LED	これらのボタンを押すと、お使いの CL3884NW とセカンドコンソールに対して各種表示モードとマルチビューモードを順番に切り替えます。詳細は、p.47「表示モード」および p.67「表示モード」を参照してください。
8	キーボード	JIS 準拠 105 キーボードです。
9	タッチパッド	標準マウスタッチパッドです。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
10	下部ハンドル (リリースバー付属)	この部分を引っ張ると、LCD モジュールを引き出すことができます。コンソールの出し入れについての詳細は p.33「コンソールの開閉」を参照してください。
11	USB 周辺機器ポート	この USB ポートには、USB 周辺機器 (プリンター、スキャナー、ドライブなど) を接続します。
12	電源 LED	グリーンに点灯すると、製品本体が給電されていることを表します。
13	ラックマウントタブ	製品本体の四隅にはラックマウントタブがあります。詳細は p.22「ラックマウントキットを使った取付方法」を参照してください。
14	ロック LED	[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock] の各状態を表す LED ランプです。
15	リセットボタン	ロック LED の右側にあるスイッチです。先の細い物でこのピンホール型スイッチを押すとシステムのリセットを実行します。
16	ファームウェア アップグレードスイッチ	通常操作時、およびファームウェアアップグレード実行時には、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせてください。ファームウェアアップグレード操作が失敗した場合に、このスイッチを使用してファームウェアアップグレードリカバリーを行います。詳細は、p.143「アップグレードに失敗したら」を参照してください。
17	LCD ON/OFF ボタン	このボタンを押すと、LCD ディスプレイの ON/OFF 操作ができます。LCD ディスプレイが OFF の時にはこのボタンが点灯します。 注意: このランプはディスプレイのみが OFF であることを示しています。接続された KVM スwitch の状態を表している訳ではありません。
18	LCD コントロールボタン	LCD ディスプレイの画像の位置や画質を設定するボタンです。詳細は p.39 を参照してください。

CL3884NW リアパネル



No.	名称	説明
1	グラウンドターミナル	製品本体を接地するために接地線を接続します。
2	電源ソケット	3 極 AC 電源ソケットです。AC 電源に接続する電源ケーブル※を接続します。
3	電源スイッチ	ロッカースイッチで、CL3884NW 本体の電源を ON/OFF にします。
4	RS-232C シリアルポート	CL3884NW は、この RS-232C シリアルポート経由でシリアルコマンドを送信することで制御することが可能です。詳細は p.103「RS-232C による操作」を参照してください。
5	セカンドコンソール セクション	柔軟性と利便性を考慮した設計により、CL3884NW ではセカンド KVM コンソールを接続することができます。セカンドコンソールとして使用する USB キーボード・マウス、HDMI モニター、およびオーディオスピーカーの各ケーブルを接続します。
6	KVM ポートセクション	コンピューターとの接続用に提供された製品同梱の KVM ケーブル(USB、HDMI、オーディオ)を接続します。

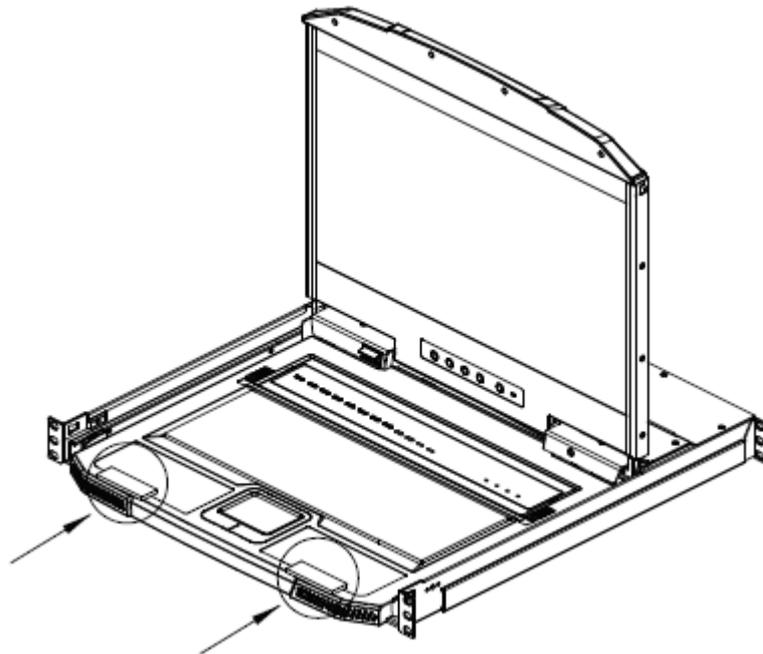
注意: CL3884NWは200Vの動作に対応していますが、100V用の電源ケーブルのみ同梱しています。200V 環境にて使用される場合は、お客様にて電源ケーブルをご用意ください。

第2章 セットアップ方法

セットアップの前に

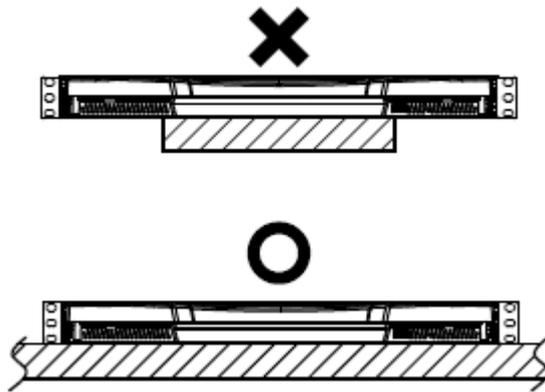


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.6 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。
3. CL3884NW の製品本体を輸送中の衝撃から保護するために、製品パッケージには梱包材が同梱されています。この梱包材が見える場所まで、LCD モジュールを引き出し (p.33「コンソールの開閉」参照)、下図に示す部分にある梱包材を取り外してから、製品本体の設置を行うようにしてください。



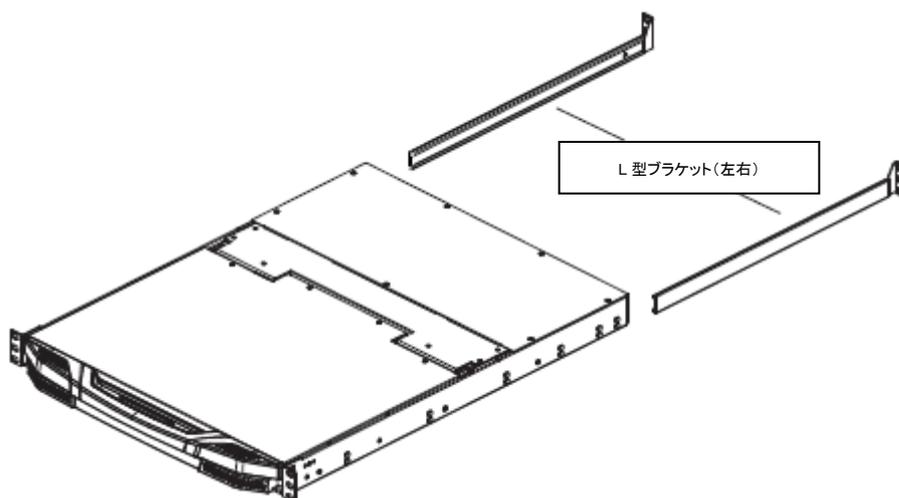
4. 製品本体はラックにマウントできるよう設計されています。本製品をラックマウントせずにお使いになる場合は、不均衡に力をかけて製品本体を損傷してしまわないよう、製品本体を水平で安定している場所に設置してから、コンソールの出し入れを行うようにしてください。
5. お使いのシステムを電力サージや静電気による損傷から保護するために、使用するすべての機器を適切に接地してください。

水平で安定した面に設置すること



ラックマウントキットを使った取付方法

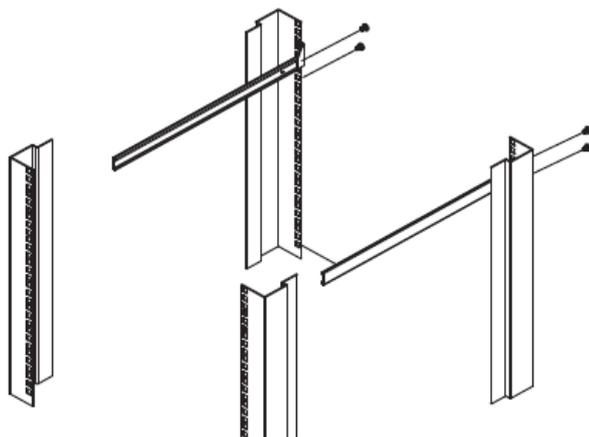
CL3884NW には標準ラックマウントキットが同梱されており、システムラックに 1U サイズでマウントすることができます。付属のラックマウントキットを使用して、製品本体の取り付けができるラックの奥行きは 58～80cm です。セットアップ手順は次のセクションで説明します。下図は、お求めになった製品パッケージに同梱されており、ラックへの取付に必要なアイテムを表したものです。



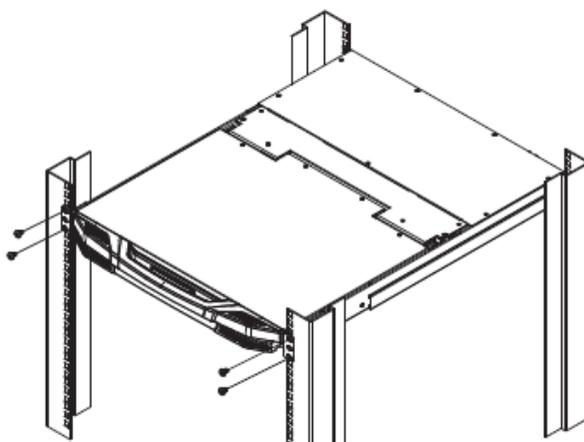
-
- 注意:**
- ◆ 製品のラックへの取付作業は製品本体を保持する作業者とネジ止めする作業者というように 2 人以上で行うようにしてください。
 - ◆ ラックマウントキットにはネジやケージナットは同梱されていません。追加でネジやケージナットが必要な場合は、ラック販売店にお問い合わせください。
 - ◆ 日本国内向けモデルには、イージーセットアップラックマウントキットが同梱されており、イージーセットアップラックマウントキットでの取付を推奨しています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.26 をご参照ください。
-

ラックへの取付は以下の手順で行ってください。

1. 左右のラックマウント用ブラケットをラックの後方の支柱に取り付けます。ブラケットのタブ部分にネジを4箇所取り付けて、固定してください。



2. 最初の作業員が左右のバーをマウント用ブラケットにスライドさせて製品本体を挿入したら、もう一人の作業員はラックのフロント側にあるタブに4箇所ネジ止めして、製品本体をラックのフロント側に固定してください。



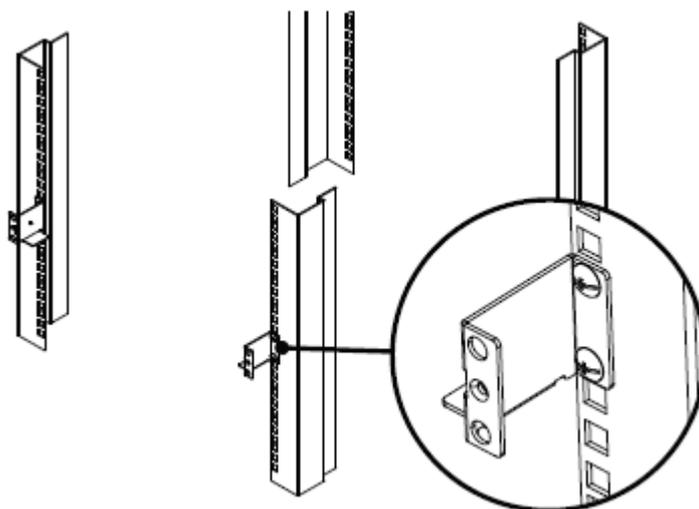
3. フロント側のブラケットが固定されていることを確認したら、すべてのネジをしっかり締めてください。

適切なエアフローを確保するために製品の両側に少なくとも5cm程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも13cm程度の余裕を設けて設置してください。

延伸ブラケットの取付方法

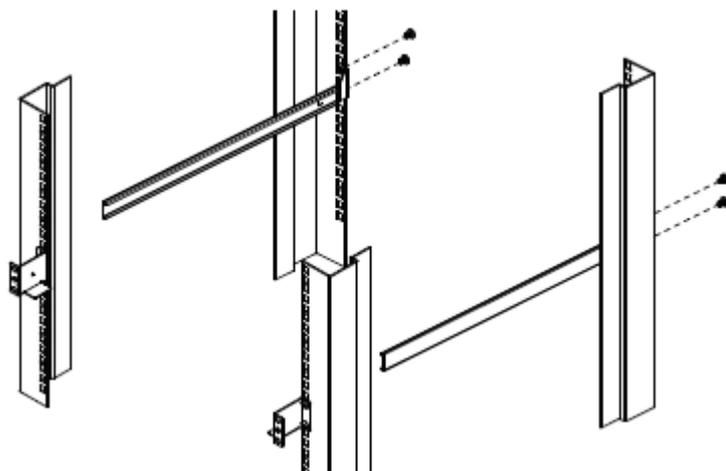
快適で安全な姿勢が保てるよう、延伸ブラケットを取り付けてください。延伸ブラケットは、ラックのフロントに延長部を設けて、ユニットをさらにスライドさせ、LCD スクリーンをより傾けることができるようにするものです。このオプションの使用方法を以下に示します。

1. 左右の延伸ブラケットをラックの前面に取り付け、タブにネジを入れて所定の位置に固定してください。

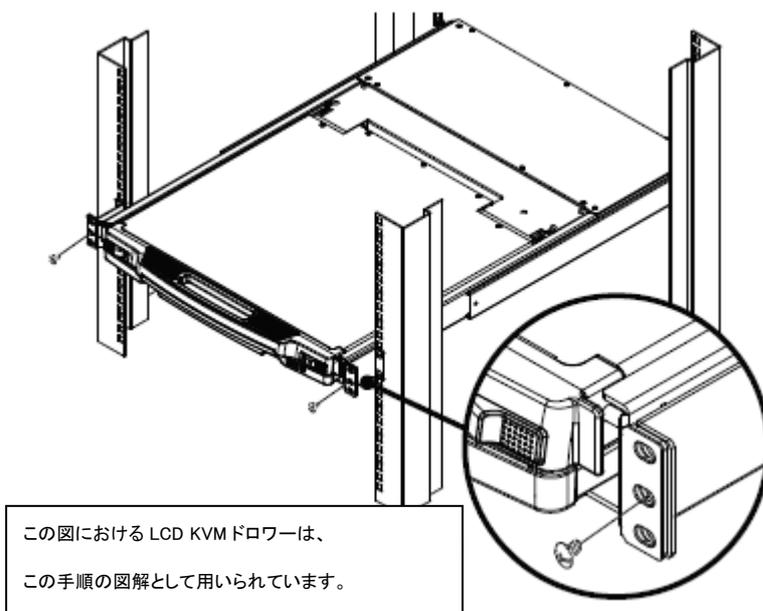


注意： ユニットを取り付けるためのラックネジは付属していません。MS×P0.8 ネジの使用を推奨します。

2. 左右の延伸ブラケットをラックのリア側に取り付けてください。そうしたら、タブに 4 本のネジを取り付けて、所定の位置に固定してください。



3. 1 人の作業者が左右のサイドバーを左右の延伸ブラケット(ラック上)にスライドさせてユニットを所定の位置に挿入する間、2 人目の作業者にフロントブラケットをラックにネジで固定してもらってください。



4. フロントブラケットが固定されたら、すべてのネジを締めてください。
適切なエアフローを確保するために製品の両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。

イージーセットアップラックマウントキットを使った取付方法

利便性や柔軟性を高めるために、オプションのラックマウントキットが用意されています。内容は下表のとおりです。

マウントキット	説明
標準ロングラックマウントキット	このキットは、奥行きの高いラックにデバイスを取り付けるためのロングレール版標準マウントキットです。
イージーセットアップラックマウントキット	このキットは設置が簡単にできるように設計されています。

- 注意:**
- ◆ 詳細については、製品の Web ページにアクセスし、互換性のあるアクセサリを参照してください。
 - ◆ インストール手順の詳細については、製品の Web ページにアクセスし、「オプションのラックマウントキットインストールガイド」を参照してください。

製品本体の接地

ご使用の機器への破損を防ぐために、すべての機器を適切に接地してください。接地線を使用して、CL3884NW の製品本体を接地してください。接地線の片方の端をグランドターミナルに接続したら、もう片方の端を適切な接地対象に接続します。



単体使用時のセットアップ方法

製品本体を単体で使用する場合、最初のユニットにKVMスイッチをカスケード接続する必要はありません。このような機器構成で使用する場合は、次の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. 接地線の一方の端をグランドターミナルに接続したら、もう一方の端を適切な接地対象に接続して、CL3884NW 本体を接地してください。

注意:

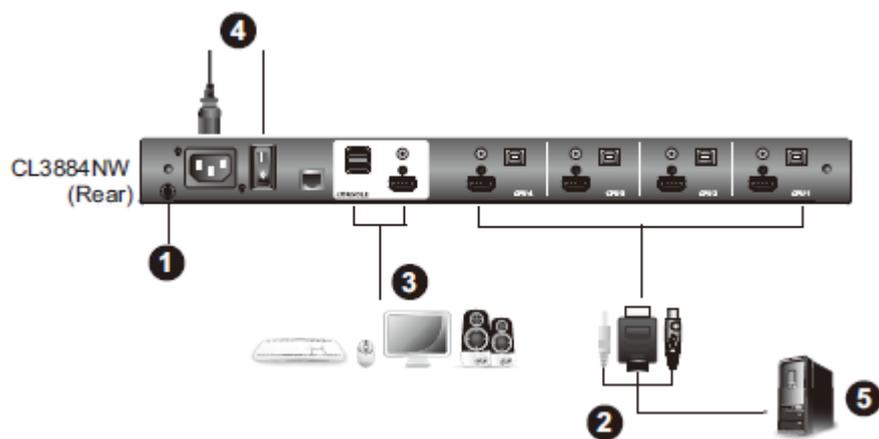
1. 接続対象となるすべてのコンピューターの電源が切られていることを確認してください。
2. この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. 付属の KVM ケーブル*(p.15「ケーブル」セクションを参照)を使用し、利用可能な KVM ポートに対して、セットアップするコンピューターのキーボード、ビデオ、およびマウスの各ポートを接続してください。次ページの「KVM ケーブルの接続図」を参照してください。

注意: お求めの際には、KVM 販売店にお問い合わせください。

3. (オプション)USB キーボード、USB マウス、セカンド用 HDMI ディスプレイ、スピーカーをセカンドコンソールセクションに接続してください。
4. 電源ケーブルを CL3884NW の電源ソケットに接続し、プラグ部分を AC 電源に差し込んでください。そうしたら、CL3884NW の電源スイッチを ON にしてください。
5. コンピューターに電源を入れてください。

接続図(単体使用時)



注意: 図内における番号は、作業手順の番号に対応しています。

ケーブル接続図

KVM ケーブルの接続図



カスケード接続

さらに多くのコンピューターを制御するには、1 台目の CL3884NW から最大 4 台の KVM スイッチを追加してカスケード接続することができます(対応する ATEN スイッチの一覧については、付録を参照してください)。完全なカスケード接続の機器構成では、1 台のコンソールから最大 16 台のコンピューターを制御できます。コンピューターの台数と、それらを制御するために必要なスイッチの台数の関係を示す表は、付録の p.148 に記載されています。

注意: CL3884NW は LCD、キーボード、マウスが一体化されており、コンソールとして使用される製品であるため、2 段階のカスケード接続の機器構成では、1 段階目のスイッチとしてセットアップすることだけが可能です。2 段階目のスイッチはすべてセカンドコンソールポートをカスケードする必要があります。

カスケード接続でセットアップを行う際には、すべてのデバイスの電源が OFF になっていることを確認してから、次の手順を実行するようにしてください。

1. 接地線の一方の端をグランドターミナルに接続したら、もう一方の端を適切な接地対象に接続して、CL3884NW 本体を接地してください。

注意:

1. 接続対象となるすべてのコンピューターの電源が切られていることを確認してください。
2. この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. 付属の KVM ケーブルを使用して、2 段階目の KVM スイッチとして接続する CM1164A/CM1284 のコンソールポートを 1 段階目の CL3884NW の利用可能な KVM ポートに接続してください。別の CM1164A/CM1284 をカスケード接続するには、この手順を繰り返してください。

注意:

1. カスケード接続用に CM1164A が接続されている場合は、必ず DVI→HDMI コネクタを使用してください。
2. CM1284 をカスケード接続する場合は、マルチビューモードを表示できるようにするために、2 段階目にある CM1284 のコンソール HDMI ポート 1 を(ポート 2 の代わりに)1 台目の CL3884NW に必ず接続するようにしてください。

- 2 段階目の CM1164A/CM1284 ユニットにコンピューター/ビデオソースを接続してください。

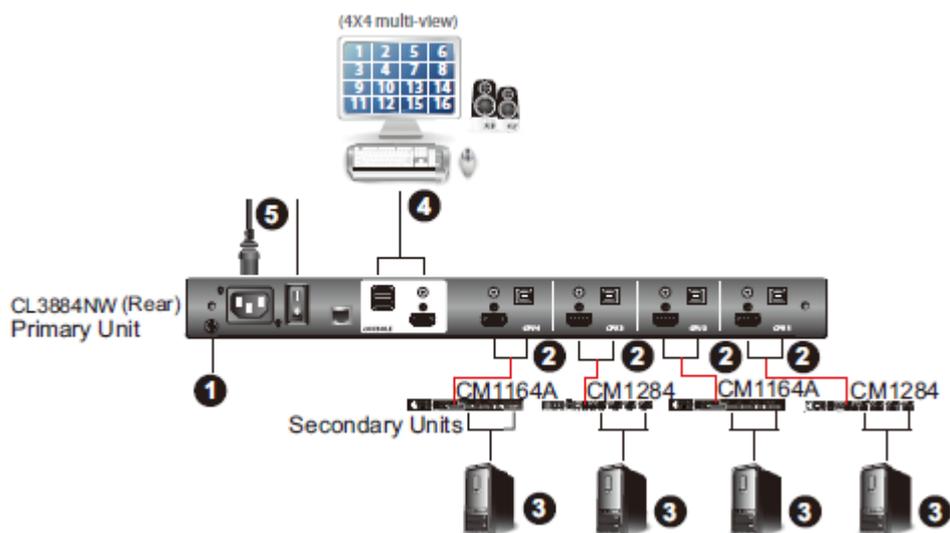
注意: CM1164A/CM1284 が接続しているコンピューターとデバイスが、適切に接地されていることを確認してください。

- (オプション)1 段階目の CL3884NW に、USB キーボード、USB マウス、スピーカーを接続してください。

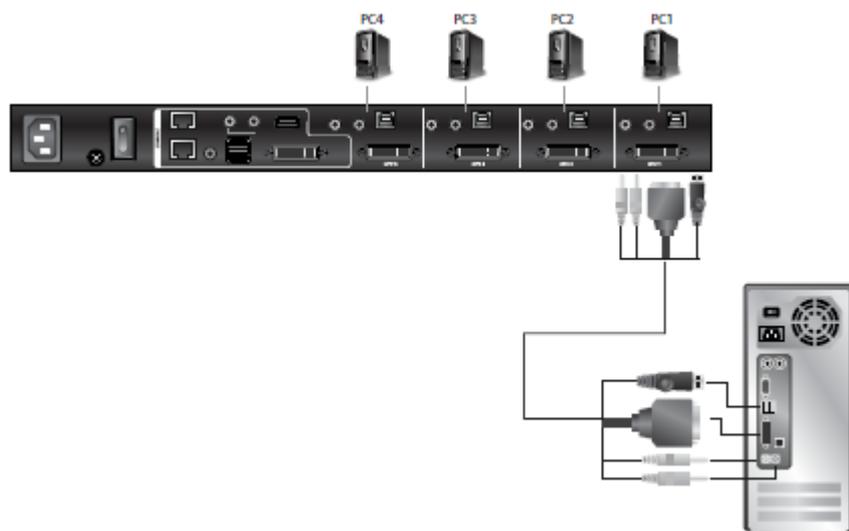
- 電源投入時は、まず、2 段階目に接続されているすべてのユニットの電源を ON にする必要があります。すべての電源を ON にした後で、マスターユニットの電源を ON にしてください。この順序ですべてのスイッチの電源を ON にしてから初めて、コンピューターの電源を ON にすることができます。

注意: CL3884NW の電源スイッチを必ず ON にしてください。

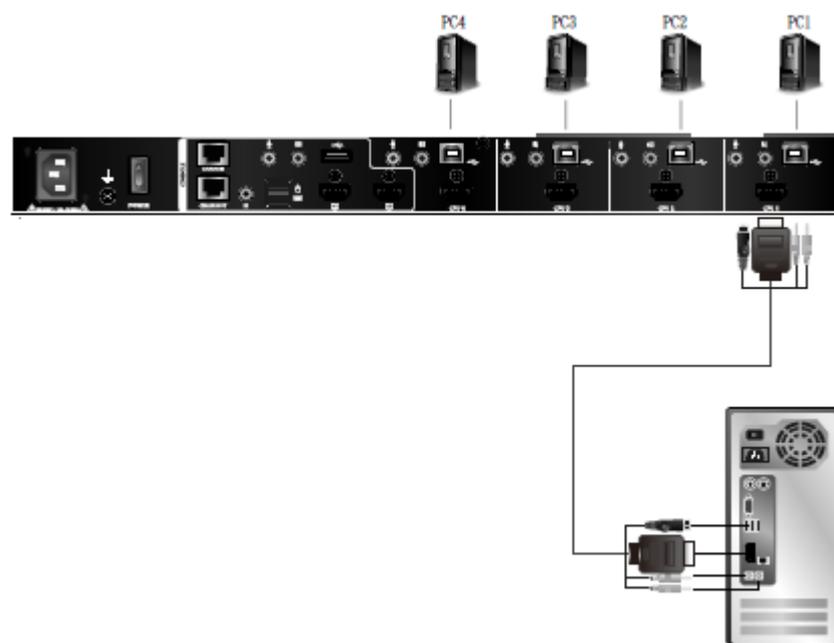
接続図 (2 段階カスケード接続の場合)



CM1164A にコンピューターやビデオソースを接続する場合



CM1284 にコンピューターやビデオソースを接続する場合



第3章 基本操作

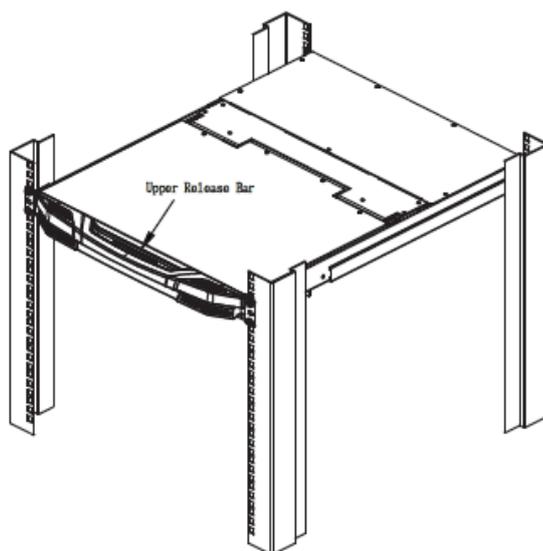
コンソールの開閉

CL3800 製品本体は、上部にある 18.5 インチの LCD パネルと、下部にあるキーボード/タッチパネルから構成されています。各モジュールは、同時または個別にスライドさせることができます。この構造によって、キーボード/タッチパネルモジュールが必要でない場合は、このモジュールを収納したまま LCD ディスプレイだけを引き出して使用することができます。

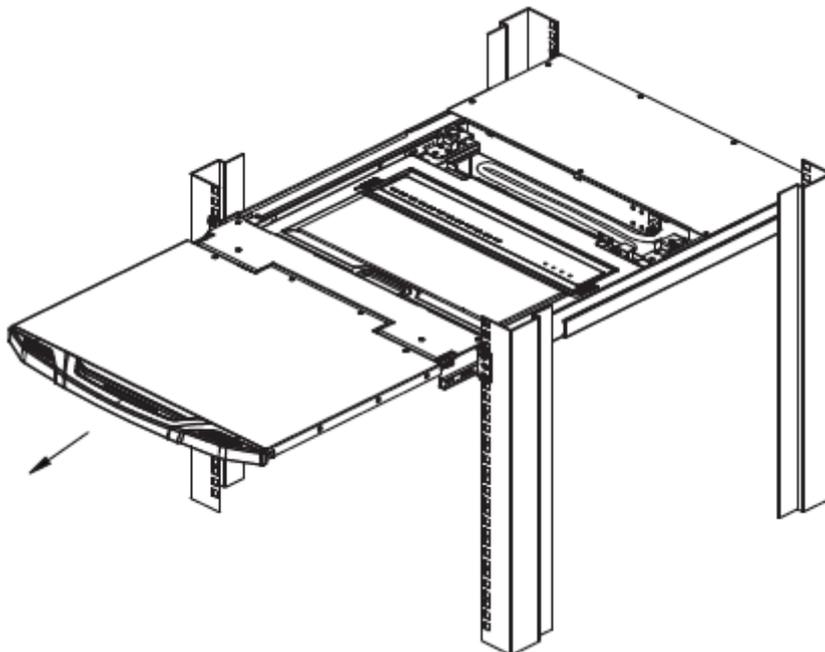
注意: 安全上の措置として、コンソールが誤って外れないように、コンソールは所定の位置にロックされています。コンソールモジュールを引き出す前に、ユニットのフロントパネルにあるリリースバーをスイッチの中央に向かって動かして解除する必要があります。

コンソールモジュールを引き出すには、次の手順に従って操作してください。

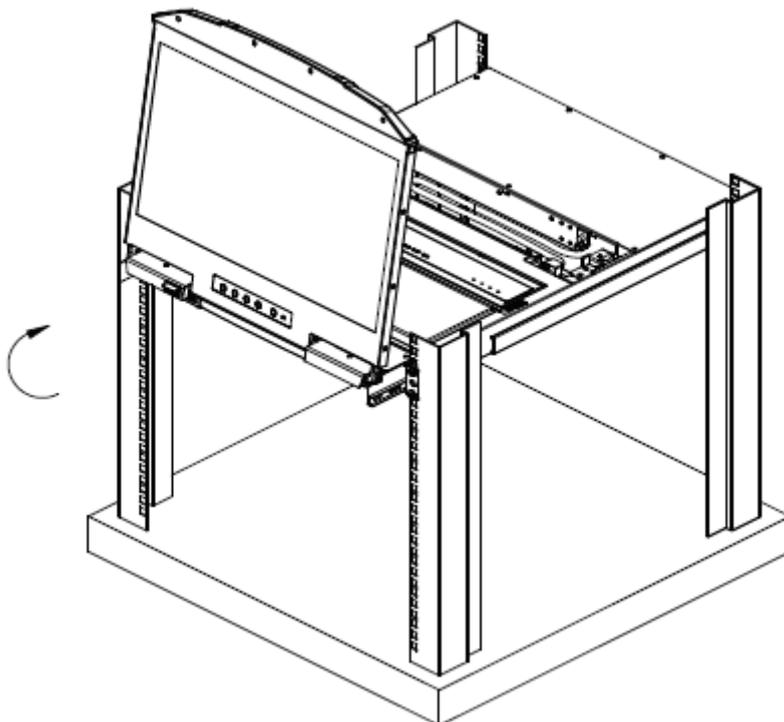
1. 上部のリリースバーハンドルを使って、パネルモジュールを手前にまっすぐ引き出してください。



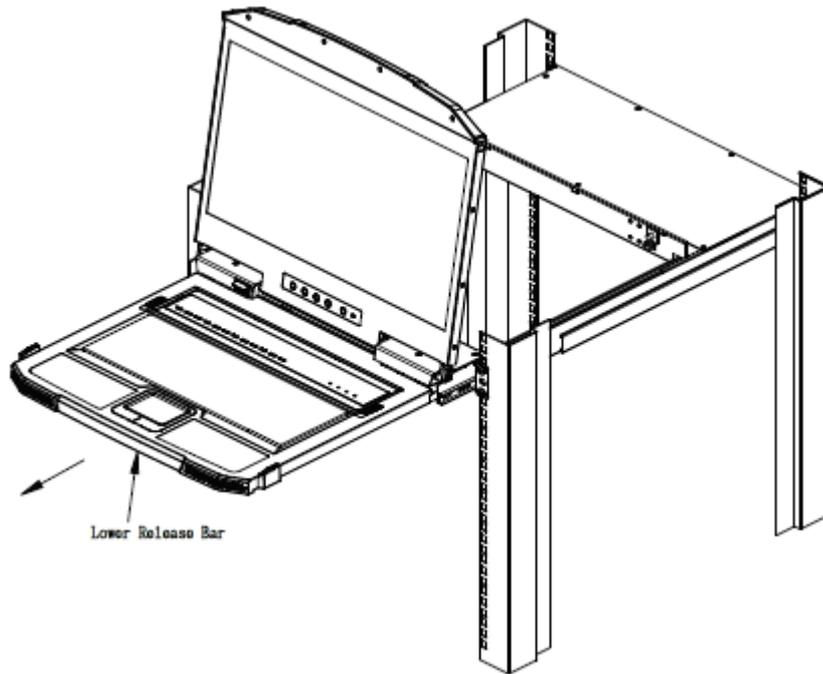
2. パネルモジュールを引っ張り、「カチッ」という音がして所定の位置に自動的に収まるまで完全に引き出してください。



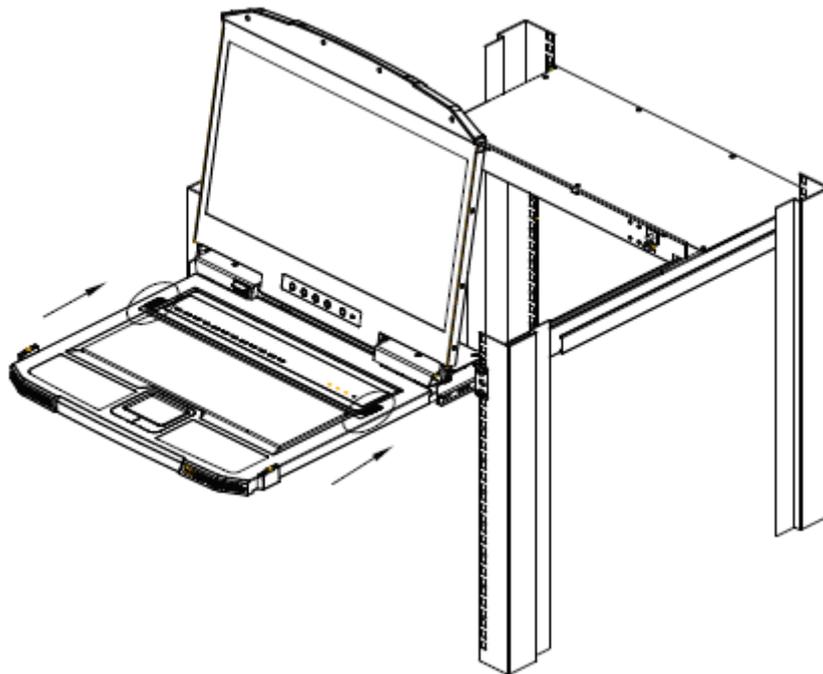
3. LCD パネルが見えるように上部パネルを完全に起こしてください。



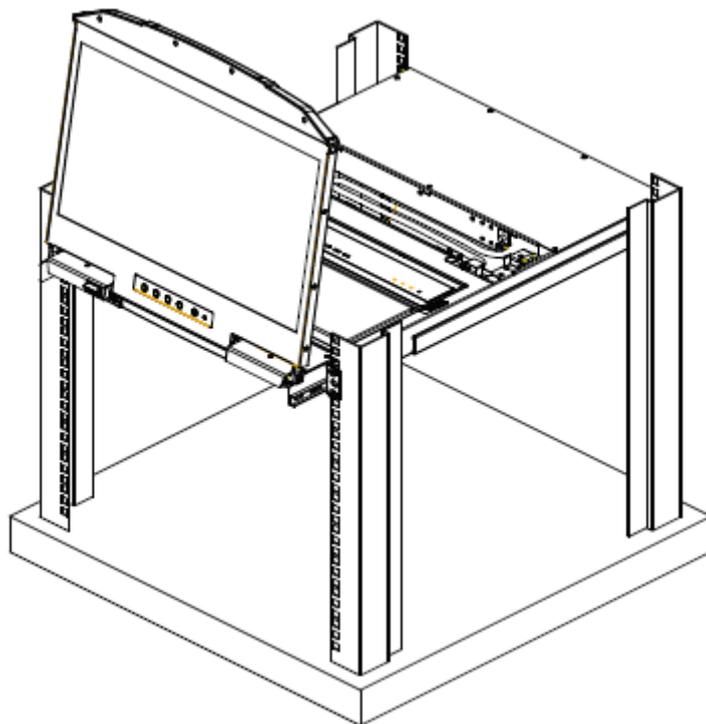
4. 「カチッ」と音がして所定の位置に収まるまで、下部のリリースバーを使ってキーボードモジュールをまっすぐ引き出してください。



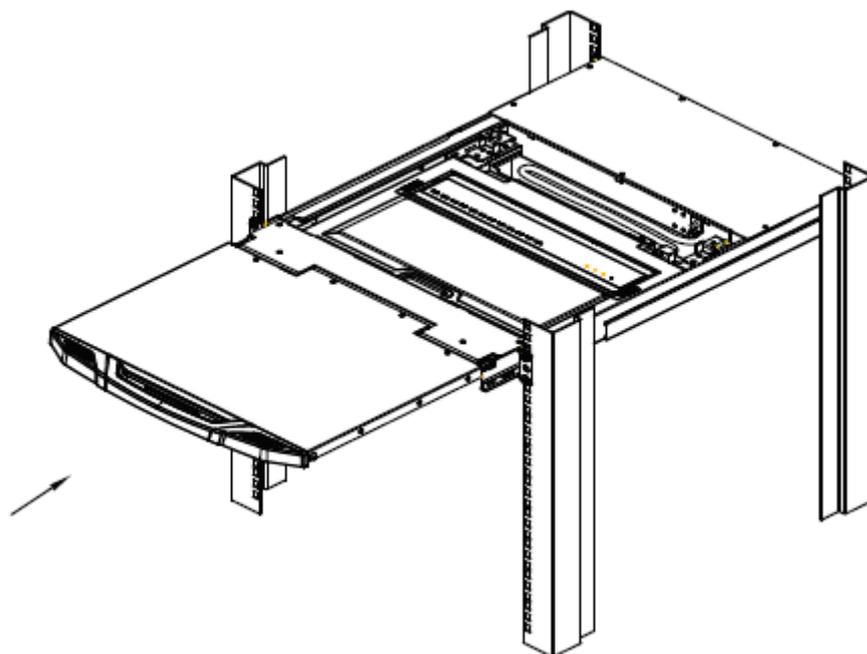
5. キーボード/タッチパッドパネルだけをラックに収納する場合は、このパネルの両側にあるキーボードモジュールリリースをスライドさせてから、キーボード/タッチパッドパネルを奥まで押し込んでください。



6. キーボード/タッチパッドパネルが完全に収納されるまで奥にスライドさせてください。



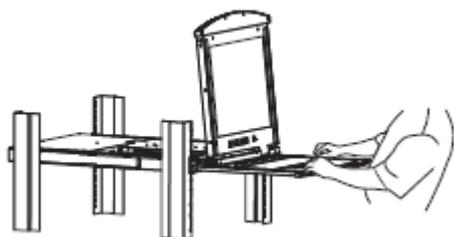
7. LCD パネルを収納する場合は、このパネルが水平になるよう下に倒し、スライドさせて元の位置まで押しこんでください。



操作上の注意事項

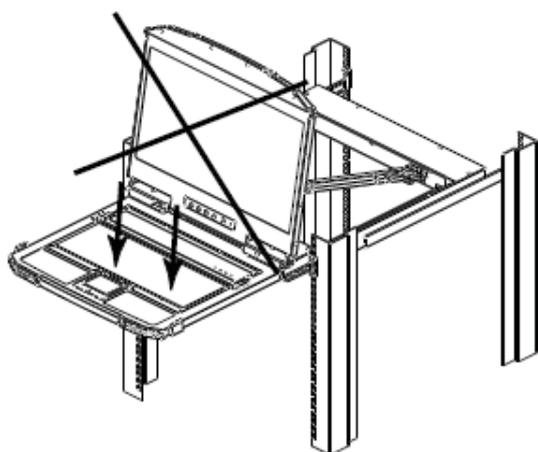


キーボードモジュールの最大積載重量は 30kg です。キーボードモジュールが破損するのを防ぐために下記の注意事項を守ってください。



正しい使用方法

キーボードモジュールに軽く手を乗せて作業する。



間違った使用方法

- ◆ キーボードモジュールに**体重をかけない**でください。
- ◆ キーボードモジュールの上に**重いもの**を載せないでください。

電源 OFF と再起動

CL3884NW の電源を切る必要が生じた場合、再起動する前に次の手順を実行してください。

1. CL3884NW に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンしてください。
注意: キーボード電源 ON 機能を持つコンピューターはすべて、電源ケーブルを抜いてください。そうしないと、CL3884NW はコンピューターから給電され続けることになります。

2. CL3884NW の電源プラグをコンセントから抜いてください。
3. 10 秒ほど経過したら、CL3884NW に電源ケーブルを接続しなおしてください。
4. CL3884NW が起動し、ステーション ID が確認できたら、コンピューターの電源を入れてください。
注意: 複数のステーションをシャットダウンした場合は、最上位にあるステーションの電源を先に入れてから、最下位にあるステーションへと順番に電源を入れていってください。

ホットプラグ

CL3884NW はホットプラグに対応しています。このため、製品本体を停止することなく、ポートからケーブルを抜くことでデバイスを取り外し、接続しなおすことができます。ホットプラグを正常に動作させるには、以下の手順に従って操作を行ってください。

KVM ポートのホットプラグ

OSD メニューに KVM ポートの変更を対応させるには、新しいポート情報を反映するように OSD を手動で再設定する必要があります。詳細は p.79 を参照してください。

注意: コンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合、この機能は正常に動作しないことがあります。

LCD OSD 設定

LCD ボタン

LCD の OSD メニュー機能を使用していないときに、このボタンを押すと、メニュー機能が呼び出され、メインメニューが表示されます。

ボタン	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD OSD メニュー機能を使用していない時にこのボタンを押すと、OSD メニュー機能を起動し、メインメニューが表示されます。◆ LCD OSD メニュー機能において、ナビゲーションボタンを使って設定のオプションを選択した状態でこのボタンを押すと、調整画面が表示されます。
	このボタンをメニューの操作時に押すと、右または上に移動します。調節時に押すと、値を増やすことができます。
	このボタンをメニューの操作時に押すと、左または下に移動します。調節時に押すと、値を減らすことができます。
EXIT/LIGHT	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD OSD メニュー機能を使用していない時にこのボタンを押すと、自動調整が実行されます。自動調整では、OSD 側で最適な設定値を自動検出して LCD パネルの設定を行います。◆ LCD OSD メニュー機能を使用している時にこのボタンを押すと、現在のメニューを終了し、一つ前のメニューに戻ります。設定が済んだら、このボタンを押して調整メニューを終了してください。◆ メインメニュー機能の使用時にこのボタンを押すと、LCD OSD メニューを終了します。
LCD ON/OFF ボタン	このボタンを押すと、LCD モニターの電源が ON/OFF になります。LCD モニターが消灯しているときは、ボタンが点灯します。 注意: このランプは、モニターが OFF であることだけを示します。接続されている KVM スイッチの状態を表しているわけではありません。

LCD の調整設定

LCD OSD の調整設定の内容は下表のとおりです。

設定	説明
Brightness (輝度)	画面イメージの背景の黒レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	画面イメージの前景の白レベルを調整します。
Color Temperature (色温度)	ディスプレイのカラー品質を調整します。暖色の値、カラーバランスなどが調整できます。「Adjust Color」メニューには、RGB 値を微調整できるサブメニューがあります。
Language (言語)	OSD メニューの表示言語を選択します。
OSD Duration (OSD 持続時間)	OSD が画面に表示される時間を設定できます。入力がないまま、ここで指定した時間が経過すると、OSD 表示は OFF になります。
Reset (リセット)	すべてのメニューおよびサブメニューの調整内容を出荷時のデフォルト設定にリセットします。 注意: 「Language」(言語)設定は、工場出荷時のデフォルト設定には戻らず、設定した言語のままになります。

注意: LCD 設定を手動で調整する代替方法として、EXIT ボタンを押すことでも LCD を最適な表示に自動調整することができます。p.39「EXIT/LIGHT」を参照してください。

ソースデバイスの識別

CL3884NW に接続されたソースは、画面の左上の隅にあるチャンネル情報から識別することができます。



このコンピューターはポート 1 に接続されています。

1 PC 1

クリックすると、ウィンドウを拡張してフルスクリーン表示にします。

このコンピューターには PC1 という名前が付いています。

注意: この情報を非表示にするには、OSD メニューから**チャンネル情報**設定(「Display」(ディスプレイ) > 「Channel Info」(チャンネル情報))を無効にしてください。

ポート ID の付番とポートの選択

ポート ID の付番

ポートID番号:この番号は、CL3884NWのリアパネルにコンピューターが接続しているポートに応じて割り当てられます。例えば、ポート 1 に接続されているコンピューターにはポート ID として 1 が割り当てられます。

デバイス名:デフォルトでは、ポート1に接続されているコンピューターの名前はPC1、ポート2に接続されているコンピューターの名前はPC2、という要領で設定されています。デバイス名を変更するには、「**System Settings**」(システム設定) > 「**Port Configuration**」(ポート設定)に移動してください。詳細については、p.79「ポート設定」を参照してください。

ポートの選択

コンピューターが接続されているポート ID を指定すると、セットアップされている任意のレベルのコンピューターに直接アクセスすることができます。

- ◆ CPU ポート選択プッシュボタンを使用 (p.17「CPU ポート選択プッシュボタン/LED」を参照)。
- ◆ OSD を使用 (p.68「OSD の操作」を参照)。
- ◆ ホットキーポート選択方式を使用 (p.87「キーボードによるポート操作」を参照)。
- ◆ RS-232C コマンドを使用 (p.103「RS-232C による操作」を参照)。

KVM スイッチ (CM1164A/CM1284) を CL3884NW に接続する場合は、接続された KVM スイッチで使用方法に従い、ポート ID の付番とポートの選択を行います。詳細については、各 KVM スイッチのユーザーマニュアルを参照してください。

注意: カスケード接続が行われている機器構成において、「1-3」というポート ID 番号は、ビデオソースが、1 台目の CL3884NW のポート 1 に接続された 2 段階目の CM1164A/CM1284 にある 3 番目のポートから出力されているものであることを示します。

切替操作

CL3884NW は、グループ切替と独立切替に対応しています。

- ◆ グループ切替:任意のコンピューターの KVM(キーボード、ビデオ、マウス)、オーディオ、および USB ソースに切り替えます。
- ◆ 独立切替:異なるコンピューター上で、KVM(キーボード、ビデオ、マウス)、ステレオオーディオ、USB ソースを個別に切り替えます。これにより、1 台のコンピューター(KVM)で作業したり、別のコンピューター(ステレオオーディオ)のオーディオにアクセスしたり、3 台目(USB)の周辺機器に接続したりすることができます。

ポートの手動切替

システム上の任意のポートに切り替え、そのコンピューターで KVM を操作するには、CPU ポート選択プッシュボタンを使用してください。詳細については、p.17「CPU ポート選択プッシュボタン/LED」を参照してください。

ホットキーによる切替

キーボードからホットキーを使用してコンピューターを切り替えることができます。

コンピューター1 に切り替えるには、次の手順で操作を行ってください。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押したら、このキーを押した指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。
4. [1]を押してください。
5. [Enter]キーを押してください。



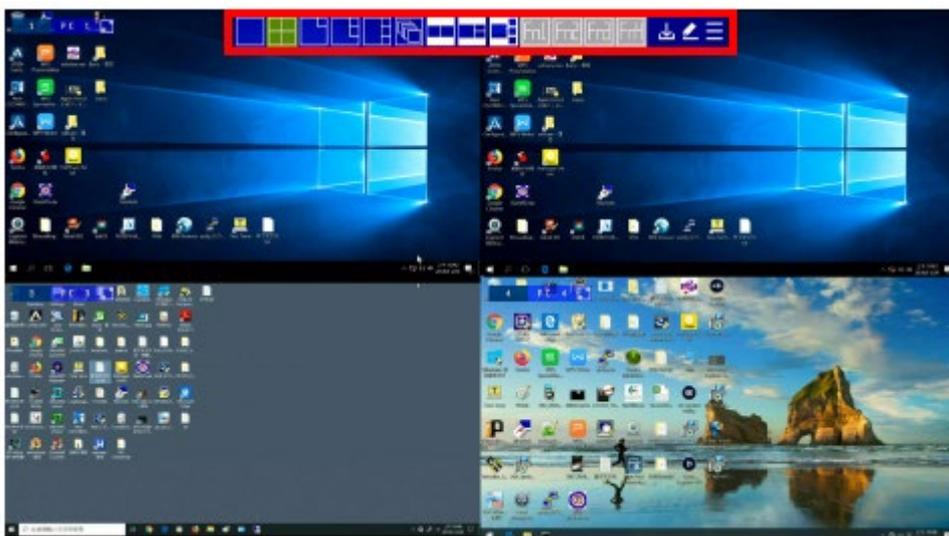
ポートに接続されているコンピューターに切り替える場合は、手順 4 のポート ID (1、2、3、4) を適宜置き換えて、操作を繰り返してください。ホットキーの詳細については、p.87「キーボードによるポート操作」を参照してください。

OSD による切替

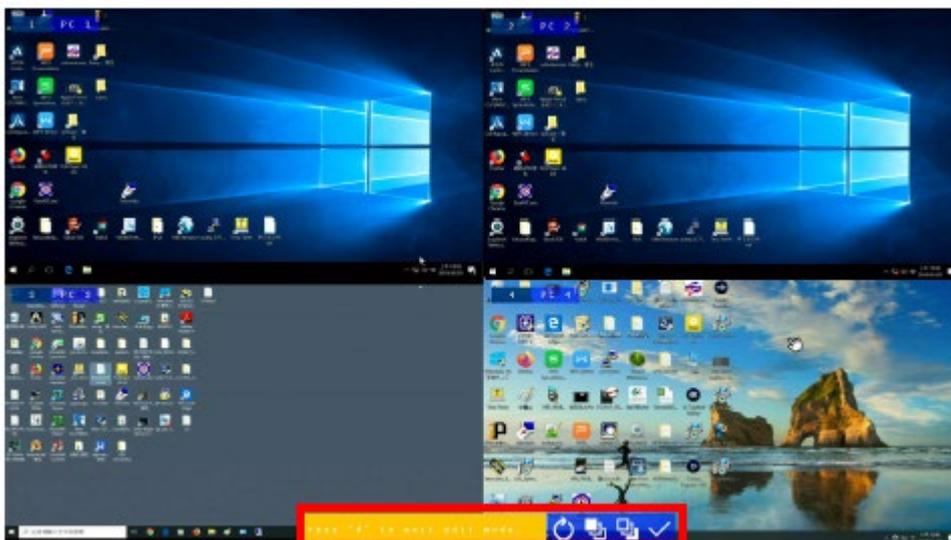
コンソールマウスでクイックアクセスツールバーにアクセスすると、コンピューターを切り替えることができます。

OSD でコンピューターを切り替えるには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. カーソルを OSD の上部に移動して、クイックアクセスバーを表示してください。



2. クイックアクセスツールバーで、 をクリックして、エディターモードを有効にしてください。そうすると、「Press  to exit edit mode」(を押すと、エディターモードを終了します)というメッセージが表示されます。



3. 左上の隅にあるポート番号をクリックしてドロップダウンリストを開き、コンピューターを **1**、**2**、**3**、または **4** から選択してください。そうすると、選択したコンピューターに表示がすぐに切り替わります。
4. 設定が完了したら、 をクリックしてエディターモードを終了してください。

マルチスクリーンコントロール

マルチスクリーンコントロールを使うと、CL3884NW はマウスカーソルを画面の境界を越えて動かすことで、コンピューターを切り替えることができます。マウスカーソルを、ある画面の上、下、左、または右から別の画面上に移動することで、隣接するコンピューターに対してキーボード/マウスの操作を切り替えることができます。オーディオと USB ハブの操作も、移動先のコンピューターに切り替わります。マウスカーソルはカスケード接続されている場合でもディスプレイ間を移動できます。

マルチスクリーンコントロール機能を使用する前に、ユーザーは OS でマウス加速を OFF にする必要があります。また、この機能は、タッチパッドまたはセカンドコンソールに接続された USB マウスのいずれかでのみ機能します。デフォルトではタッチパッドに設定されています。マルチスクリーンコントロール機能は、この 2 つを切り替えて実行することができます。詳細については、p.95「ホットキー一覧表」を参照してください。

表示モード

CL3884NW は、製品本体に接続されている複数のコンピューターを同じ画面で表示することができます。表示モードを設定することで異なるレイアウトで表示することができます。ここでは、各種表示モードに切り替える方法を紹介します。

フルスクリーン

フルスクリーン表示では、1 台のコンピューターの画面を最大限に引き伸ばして表示されます。



方法	アクション	説明
CPU ポート 選択プッシュボタン	CPU ポート選択プッシュボタンを押してください。	
マウスホイール	PIP モードのいずれかで、拡張するウィンドウにカーソルを移動し、マウスホイールをダブルクリックしてください。 注意: この機能はデフォルトでは無効になっています。この機能を使用するには、OSD メニューから「Advanced」(詳細設定) > 「Mouse Wheel Switching」(マウスホイールにより切替) 機能を有効にします。	N/A

(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	<p>マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。</p> <p>注意:ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。</p>	
ホットキー	<p>特定のポートに切り替えて、コンピューターをフルスクリーンで表示します。</p> <p>ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。</p>	
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「Single」(シングル)を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

クワッドビュー

クワッドビューでは、4 台のコンピューターが同じサイズのウィンドウでモニターに表示されます。



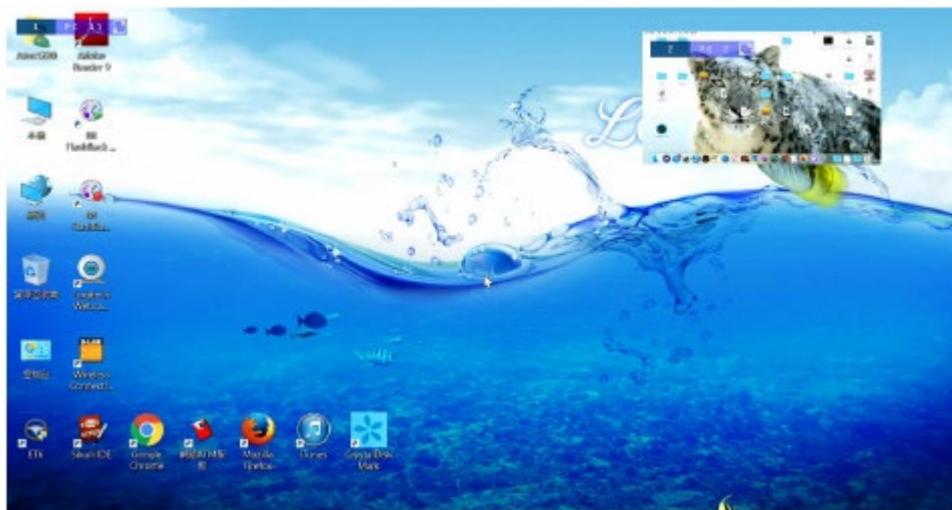
方法	アクション	説明
マルチビューモード&表示モード プッシュボタン/ LED	このボタンを押すと、クワッドビューモードが表示されます。	
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「Quad」(クワッド)を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル

クワッドビューでは、4 台のコンピューターが同じサイズのウィンドウでモニターに表示されます。デュアル PiP ビューでは、1 台をメインディスプレイとし、もう 1 台をインセットウィンドウでメインディスプレイに重ねて、モニター上に 2 台のコンピューターが表示されます。



方法	アクション	説明
マルチビューモード&表示モード プッシュボタン/ LED	このボタンを押すと、ピクチャ・イン・ピクチャ デュアルモードで表示されます。	
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73 「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88 「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PiP2」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル

トリプル PiP ビューは、1 台のコンピューターをメインディスプレイとし、もう 2 台をインセットウィンドウのメインディスプレイに重ねて、モニター上に 3 台のコンピューターが表示されます。



方法	アクション	説明
マルチビューモード&表示モード プッシュボタン/ LED	このボタンを押すと、ピクチャ・イン・ピクチャ トリプルモードで表示されます。	
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73 「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88 「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

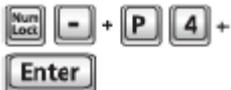
(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PiP3」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド

クアッド PiP ビューでは、1 台をメインディスプレイとし、他の 3 台をインセットウィンドウでメインディスプレイに重ねて、モニター上に 4 台のコンピューターが表示されます。



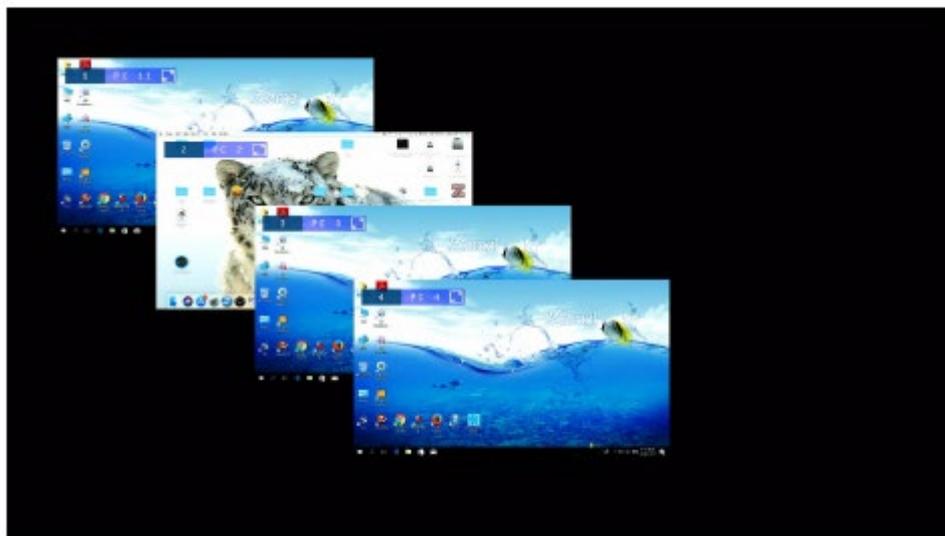
方法	アクション	説明
マルチビューモード&表示モード プッシュボタン/ LED	このボタンを押すと、ピクチャ・イン・ピクチャ クワッドモードで表示されます。	
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

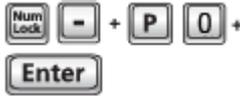
(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PiP4」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・オン・ピクチャ

ピクチャ・オン・ピクチャ(PoP)ビューでは、4 台のコンピューターがモニター上で別々のウィンドウに表示されます。エディターモードでは、コンソールマウスを使用して、画面上の各ウィンドウのサイズを変更したり、位置を変更したりすることができます。



方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73 「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88 「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PoP」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・バイ・ピクチャ - デュアル

ピクチャ・バイ・ピクチャ(デュアル)ビューでは、2 台のコンピューターを並べてモニターに表示します。



方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

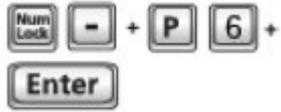
(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PbP2」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・バイ・ピクチャ – トリプル

ピクチャ・バイ・ピクチャ(トリプル)ビューでは、3 台のコンピューターを並べてモニターに表示します。



方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

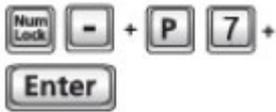
(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PbP3」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

ピクチャ・バイ・ピクチャ – クワッド

ピクチャ・バイ・ピクチャ(クワッド)ビューでは、4 台のコンピューターを並べてモニターに表示します。



方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	

(表は次のページに続きます)

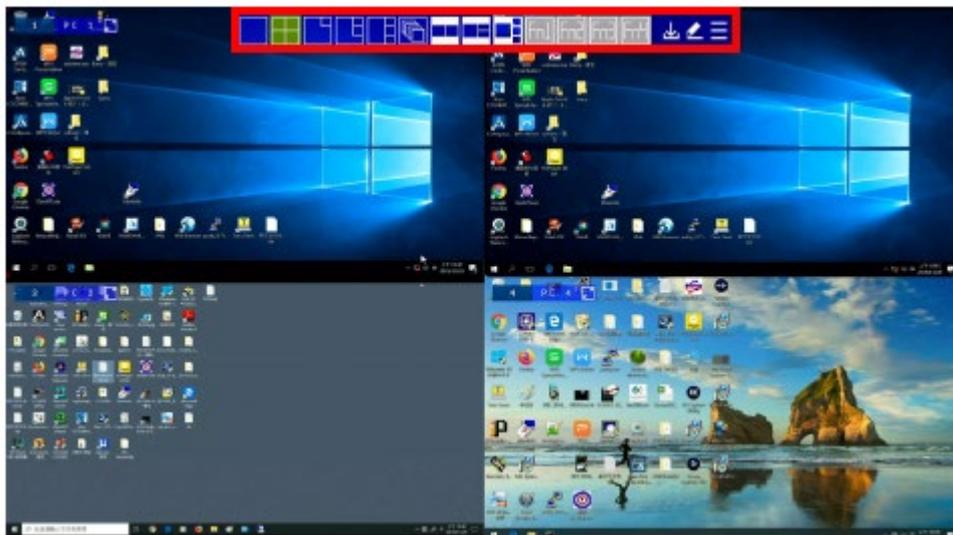
方法	アクション	説明
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Multiview Mode」(マルチビューモード)に進み、「PbP4」を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

プリセット設定

表示モード、ソースアサイン、分割サイズ、分割場所、KVM/オーディオ/USB の選択状況など、最大 4 セットの設定を保存して、各種表示設定を簡単に切り替えることができます。

設定を保存するには、次の手順に従って操作を行ってください。

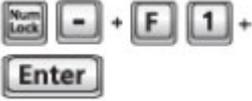
1. 必要に応じて、ディスプレイ設定を定義してください。
2. コンソールマウスを画面上部に移動させてください。そうすると、クイックアクセスツールバーが表示されます。



3.  をクリックしてプリセット(Fn)を選択し、現在の設定を保存してください。
4. プリセット設定を適用するには、次のいずれかの方法を使用してください。

方法	アクション	説明
クイックアクセス ツールバー	マウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、クイックアクセスツールバーから選択してください。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73 「OSD メニュー」を参照してください。	

(表は次のページに続きます)

方法	アクション	説明
ホットキー	<p>図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。</p>	
OSD メニュー	<p>OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Save to Fn」(Fn に保存) に移動し、目的のプリセット設定 (Fn1、Fn2、Fn3、および Fn4) を選択してください。</p> <p>注意:OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。</p>	

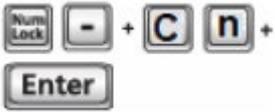
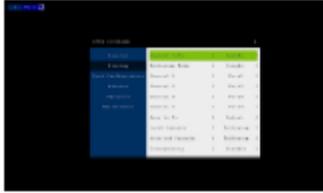
表示モード

お使いの CL3884NW における LCD (ローカルコンソール) とセカンドコンソールには、3 つの表示モードがあります。

- ◆ フルスクリーンでマルチビュー
- ◆ マルチビューでフルスクリーン
- ◆ マルチビューでマルチビュー

注意: 初期設定では、CL3884NW は LCD (ローカルコンソール) にマルチビューが、セカンドコンソールにフルスクリーンが、それぞれ表示されます。

表示モードを変更するには、次の方法を使用してください。

方法	アクション	説明
マルチビューモード & 表示モード プッシュボタン/ LED	このボタンを押すと、各種表示モードを表示します。選択できるのは、「Multi-view with Full-screen」(フルスクリーンでマルチビュー)、「Full-screen with Multi-view」(マルチビューでフルスクリーン)、「Multi-view with Multi-view」(マルチビューでマルチビュー)です。	
ホットキー	図のホットキーを入力してください。ホットキーの操作方法については、p.88「ホットキーモードの起動」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD で、クイックアクセスツールバーから  をクリックし、「Display」(表示) > 「Local Console」(ローカルコンソール) または 「External Console」(セカンドコンソール) に移動し、表示モードを選択してください。 注意: OSD メニューにアクセスするのにパスワードが必要な場合があります。詳細については、p.73「パスワード保護」を参照してください。	

第4章 OSD の操作

OSD の概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、マウスとキーボードで操作できるメニュー形式のインターフェースです。ここから、コンピューターを操作したり切替操作を行ったりすることができます。すべての手順は、OSD メイン画面から開始します。

CL3884NW は、以下の OSD コンポーネントを介して操作や設定を行うことができます。

- ◆ クイックアクセスツールバー: このツールバーからは、表示モードの変更、表示テンプレートの保存、および分割サイズのカスタマイズといったメニューに迅速にアクセスできます。詳細については、p.70「クイックアクセスツールバー」を参照してください。
- ◆ OSD メニュー: すべてのシステム設定に対するコントロールが含まれています。詳細は p.73「OSD メニュー」を参照してください。

OSD へのログイン

OSD には、ワンレベルのパスワードシステムが組み込まれています。OSD メイン画面が表示される前に、パスワードを要求するログイン画面が表示されます。

OSD を初めて使用する場合、またはパスワード機能が設定されていない場合は、デフォルトのパスワードを使用してログインしてください。OSD メイン画面は、アドミニストレーターモードで表示されます。このモードでは、すべてのアドミニストレーターおよびユーザー機能にアクセスできる管理者権限を持ち、必要に応じて操作(パスワード認証を含む)の設定が行えます。

パスワード機能が設定されている場合は、OSD にアクセスするために適切なアドミニストレーター/ユーザーのパスワードを入力する必要があります。

専用呼び出しキー

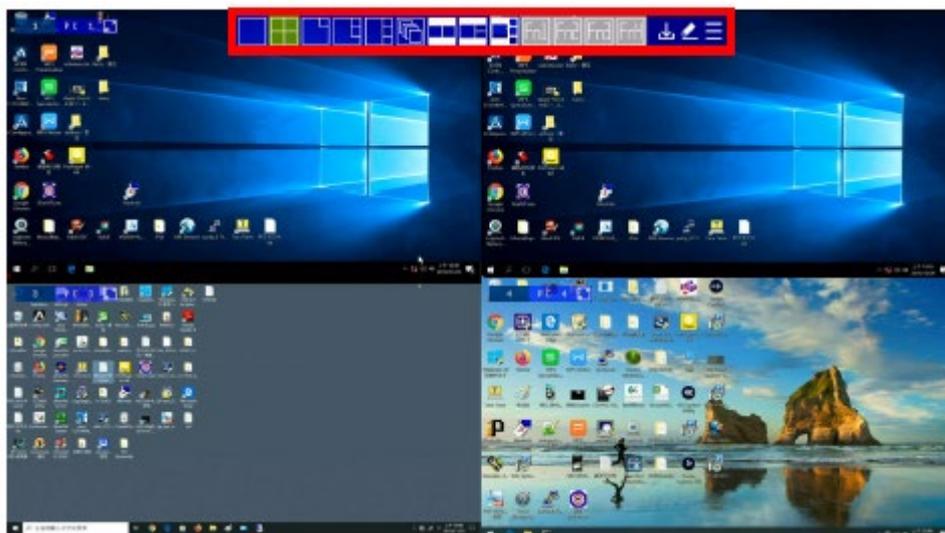
キーボードモジュールには専用のキーが用意されており、OSD を簡単に起動することができます
(下図を参照)。



注意: 1 回押すと機能が呼び出され、もう一度押すと終了します。

クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーを使用すると、表示モードの切り替え、エディターモードを介したウィンドウサイズと位置のカスタマイズ、表示テンプレートの適用と保存を簡単に行うことができます。



クイックアクセスツールバーを表示するには、コンソールマウスを画面の上部に移動してください。クイックアクセスツールバーには、次のコントロールがあります。

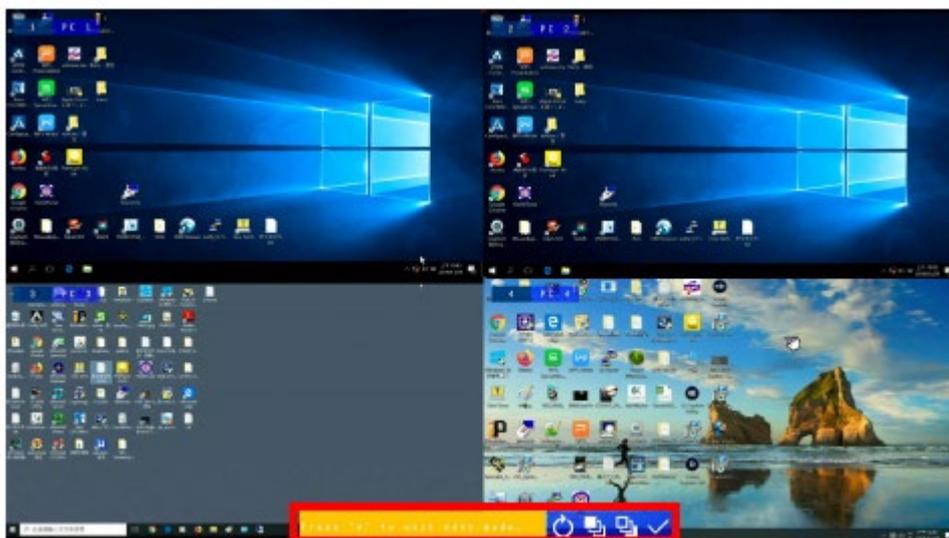
- ◆ : アイコンをクリックすると、該当する表示モードが適用されます。
- ◆ : このアイコンをクリックすると、エディターモードが有効になり、ソースを特定のチャンネルに割り当てたり、インセットウィンドウのサイズを変更したりできます。
- ◆ : 機能アイコンをクリックすると、選択した表示テンプレートを適用します。
- ◆ : このアイコンをクリックすると、現在の表示設定が表示テンプレートに保存されます。
- ◆ : このアイコンをクリックすると、OSDメニューを開きます。詳細については、p.73「OSDメニュー」を参照してください。

注意: 表示位置を変更するには、OSDメニューの「Display」(表示) > 「Toolbar Position」(ツールバーの位置)に移動してください。

エディターモード

ソース表示をカスタマイズするには、エディターモードを使用してください。このモードでは、ウィンドウのサイズ変更、ディスプレイソースの変更、ウィンドウの再配置ができます。エディターモードを有効にするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. コンソールマウスの操作を許可できるよう、次の機能が有効になっていることを確認してください。詳細については、p.73「OSDメニュー」を参照してください。
 - ◆ ハードウェアカーソル
 - ◆ マウスエミュレーション
2. コンソールマウスを画面上部に移動して、クイックアクセスツールバーを表示してください。
3. クイックアクセスツールバーから、 をクリックしてください。そうすると、「Press  to exit edit mode」(✓を押すと、エディターモードを終了します)というメッセージが表示され、エディターモードが有効であることを表します。



4. 必要に応じて、ディスプレイの設定および調整を行ってください。エディターモードが有効な場合は、次の操作を実行できます。

機能	アクション
表示モードの変更	<ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックアクセスツールバーから表示モードをクリックしてください。 ◆  をクリックすると、ウィンドウがフルスクリーンで表示されます。
プリセット設定の適用	クイックアクセスツールバーから Fn アイコンをクリックしてください。詳細については、p.65「プリセット設定」を参照してください。
クワッドモードにおけるビデオソースの位置入替	左上の隅にあるポート番号をクリックし、ポートを選択してください。
ウィンドウのサイズ変更	ウィンドウをクリックし、カーソルをウィンドウの隅に移動させたら、角をドラッグしてウィンドウサイズを変更してください。
ウィンドウの再配置	ウィンドウをクリックしたまま、画面上における目的の場所にドラッグしてください。
ウィンドウの前面または背面設定	2つのウィンドウが重なっている場合、どちらを前面に表示するかを設定することができます。ウィンドウを他のウィンドウの上に表示するには、前面に設定したいウィンドウをクリックし、  をクリックしてください。  をクリックすると、選択したウィンドウを背面に移動させます。
リセット	 をクリックすると、すべてのポートの位置とサイズがデフォルト設定にリセットされます。

注意: エディターモードを有効にすると、OSDメニューにアクセスできなくなり、ホットキー機能が無効になります。

5. 設定が完了したら、 をクリックし、エディターモードを終了してください。

OSD メニュー

OSD メニューには、CL3884NW の表示設定とシステム設定がすべて含まれています。OSD メニューにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用してください。

- ◆ コンソールキーボードの[Scroll Lock]キーを 2 回タップする。
- ◆ コンソールマウスを OSD の上部中央に移動してクイックアクセスツールバーを表示し、をクリックする。

注意: OSD を有効にするホットキーは、[Ctrl]キーに変更できます。p.76「Menu Hotkey (メニューホットキー)」を参照してください。

パスワード保護

デフォルトでは、CL3884NW の OSD メニューはパスワードで保護され、OSD メニューが 30 秒間操作されていないとロックされます。これは、クイックアクセスツールバーを使った操作全般から OSD メニューの詳細設定を保護するための機能です。詳細設定には次が含まれます。

- ◆ 表示モードの変更
- ◆ ソースの切替
- ◆ マルチビューモードにおけるウィンドウのサイズ変更と再配置
- ◆ PoP モードにおける表示順の変更
- ◆ 設定の保存
- ◆ プリセット設定の適用
- ◆ ポートの入替
- ◆ 任意のマルチビューモードにおけるチャンネル位置の再割り当て

-
- 注意:**
1. パスワード保護を無効にするか、パスワードを変更するには、OSD メニューで「**Password**」(パスワード) > 「**Password Protection**」(パスワード保護)に移動してください。
 2. CL3884NW が OSD メニューからログアウトする期間を設定するには、「**General**」(全般) > 「**Logout Timeout**」(ログアウトタイムアウト)に進んでください。
-

OSD メイン画面

[Esc]キーまたはスペースキーを押すと、OSD メニューを閉じることができます。

- ◆ [Esc]キーを押すと前のページに戻ります。

OSD を起動すると、次のような画面が表示されます。



OSD 機能は、OSD の設定と操作に使用されます。例えば、任意のポートに素早く切り替えたり、選択したポートをスキャンしたり、表示するリストを制限したり、ポートをクイックビューポートとして指定したり、ポート名を作成または編集したり、OSD 設定を調整したりすることができます。各種設定については次に説明します。また、デフォルト設定は太字で表示されます。

全般



設定	オプション	説明
全般		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
OSD Language (OSD 言語)	英語 /繁体字中国語/簡体字中国語/日本語/韓国語/フランス語/ドイツ語/イタリア語/ロシア語	OSD メニューの言語を設定します。
Pushbutton Lock (プッシュボタンのロック)	有効 /無効	CL3884NW のパネルプッシュボタンをロックまたはロック解除します。
Logout Timeout (ログアウトタイムアウト)	なし /10 秒/30 秒/60 秒/5 分/10 分	最後の入力または RS-232C コマンドが実行されてから、OSD メニューから自動ログアウトするか RS-232C セッションが終了する前までに、CL3884NW が待機しなければならない時間を設定します。
Activate Beeper (ビープ音の有効化)	有効 /無効	この機能を有効にすると、CL3884NW ではユーザー設定を示し確認するためのビープ音が鳴ります。

(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Toolbar Position (ツールバーの位置)	上部/下部	クイックアクセスツールバーの位置を設定します。
Keyboard Language (キーボード言語)	自動検出/英語	ローカルキーボードの言語を自動検出します。これらのオプションを使用できるようにするには、OSDメニューでキーボードエミュレーションを有効にしてください。
Hardware Cursor (ハードウェアカーソル)	有効/無効	この機能を有効にすると、コンソールマウスを使用して分割サイズをカスタマイズしたり、区画間を移動したり、クイックアクセスツールバーを表示したりすることができます。また、チャンネルエディターでは、マウスや画面上のコントロールパネルを使用して、表示モードやその他の設定を変更できます。
HSM	[NumLock][-] / [Ctrl][F12]	ホットキー設定モード(HSM)を有効にするためのホットキーの組み合わせを定義します。
Menu Hotkey (メニューホットキー)	[Scroll Lock] 2 度押し / [Ctrl] 2 度押し	OSD を開くためのホットキーの組み合わせを設定します。
Broadcast Mode (ブロードキャストモード)	無効/有効	この機能を有効にすると、ソフトウェアのインストールやアップグレード、システム全体のシャットダウンなどの操作を、すべてのコンピューターで同時に、かつシームレスに実行することができます。

ディスプレイ

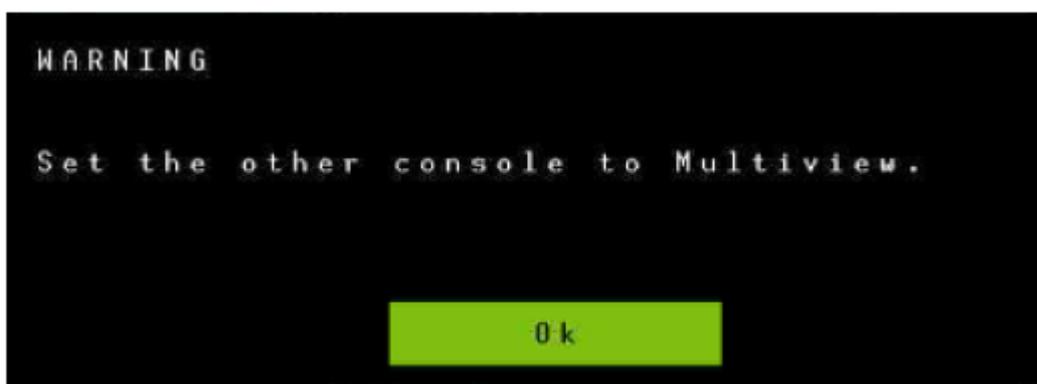


設定	オプション	説明
ディスプレイ		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
Channel Info (チャンネル情報)	有効/無効	この設定を有効にすると、ポート ID 番号とデバイス名を表示します。
Multiview Mode (マルチビューモード)	シングル / クワッド / PiP2/PiP3/PiP4/PoP/PbP1/PbP2/PbP3/Fn1/Fn2/Fn3/Fn4	CL3884NW の表示モードを設定または変更します。各表示モードの詳細については、p.47「表示モード」を参照してください。
Channel 1 (チャンネル 1)	ポート 1/ポート 2/ポート 3/ポート 4	チャンネルごとにソースの割り当てを行います。例えば、チャンネル 1 にポート 2 を選択すると、ポート 2 のソースがチャンネル 1 に表示され、ポート 1 のソースがチャンネル 2 に表示されます。
Channel 2 (チャンネル 2)	ポート 1/ ポート 2 /ポート 3/ポート 4	
Channel 3 (チャンネル 3)	ポート 1/ポート 2/ ポート 3 /ポート 4	
Channel 4 (チャンネル 4)	ポート 1/ポート 2/ポート 3/ ポート 4	

(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Save to Fn (Fn に保存)	Fn1/Fn2/Fn3/Fn4	ビューモードの設定を、選択したファンクションモードに保存します。
Local Console (ローカルコンソール)	マルチビュー/カーソルに従う/ポート 1/ポート 2/ポート 3/ポート 4	ローカルコンソールの操作が、マルチビュー、ポート 1、ポート 2、ポート 3、ポート 4 のいずれかで実行されるか、カーソルに従うように設定します。
External Console (セカンドコンソール)	マルチビュー/カーソルに従う/ポート 1/ポート 2/ポート 3/ポート 4	セカンドコンソールの操作が、マルチビュー、ポート 1、ポート 2、ポート 3、ポート 4 のいずれかで実行されるか、カーソルに従うように設定します。
Transparency (透明度)	有効/無効	この設定を有効にすると、PiP ディスプレイのインセットウィンドウが半透明になります。 注意: この設定は、内蔵の PiP2、PiP3、および PiP4 モードにのみ適用されます。

ローカルコンソールとセカンドコンソールの両方がフルスクリーン操作に設定されている場合は、警告メッセージが表示されます。



ポート設定

ATEN CL3884NW

General

Display

Port Configuration

Advance

Password

Maintenance

Port 1 Name PC 1

Port 2 Name PC 2

Port 3 Name PC 3

Port 4 Name PC 4

Maximum 20 words

Port 1 OS [Min]

Port 2 OS [Min]

Port 3 OS [Min]

Port 4 OS [Min]

設定	オプション	説明
ポート設定		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
Port 1 Name (ポート 1 の名前)	PC1	CL3884NW のポート 1/ポート 2/ ポート 3/ポート 4 に接続されたコ ンピューターの名前を入力してく ださい。
Port 2 Name (ポート 2 の名前)	PC2	
Port 3 Name (ポート 3 の名前)	PC3	
Port 4 Name (ポート 4 の名前)	PC4	

(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Port 1 OS (ポート 1 の OS)	Win/Mac/SUN/SPC	接続されている各コンピューターの OS を定義します。
Port 2 OS (ポート 2 の OS)	Win/Mac/SUN/SPC	
Port 3 OS (ポート 3 の OS)	Win/Mac/SUN/SPC	
Port 4 OS (ポート 4 の OS)	Win/Mac/SUN/SPC	

詳細設定



設定	オプション	説明
詳細設定		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
Expansion (拡張)	カスケード接続	CL3884NW の配置をカスケード接続に設定します。 注意: ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.73「OSD メニュー」を参照してください。
Auto Scan (オートスキャン)	無効/有効	この機能を有効にすると、CL3884NW は、定義されたインターバル時間でオートスキャンを実行し、ポートを循環して切り替えるようになります。これにより、ポートに接続されているすべてのコンピューターを自動的に表示することができます。 マウスホイールをダブルクリックすると、次のポートに切り替わります。

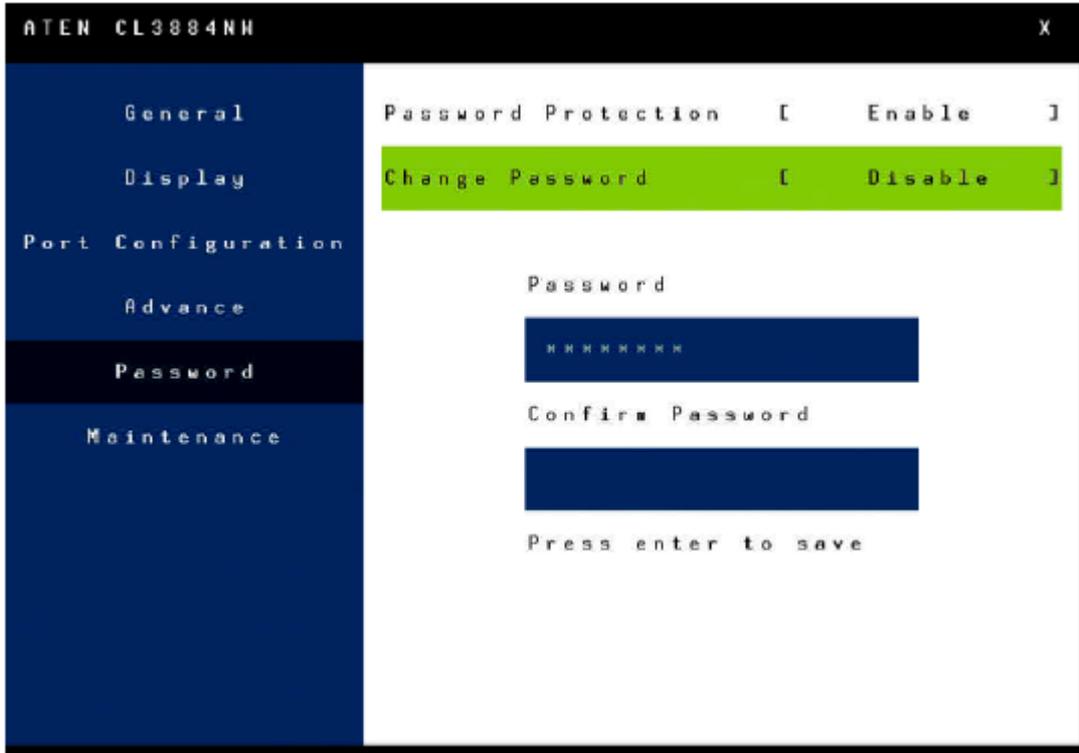
(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Auto Scan Duration (オートスキャンの スキャンインターバル)	5 秒/10 秒/15 秒/30 秒 /60 秒/90 秒	この設定は、オートスキャンが有効な場合にのみ使用できます。次のポートに切り替わる前にポートで KVM 操作が選択されている時間を設定します。
Auto Scan Mode (オートスキャンモード)	循環/電源 ON の PC	この設定は、オートスキャンが有効な場合にのみ使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 循環:すべてのコンピューターを順番に切り替えるようにオートスキャンを設定します。 ◆ 電源 ON:電源が ON になっているコンピューターのみをスキャンするようにオートスキャンを設定します。
EDID Mode (EDID モード)	ディスプレイ A/ディス プレイ B/リミックス/FHD	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ディスプレイ A(ローカルコンソール) / ディスプレイ B(セカンドコンソール):このモードでは、選択したディスプレイ(ディスプレイ A または ディスプレイ B)の EDID を、接続されたすべてのソースに対して送信します。 注意:指定した EDID モードでエラーが発生し、ビデオを表示できない場合、CL3884NW は自動的に EDID モードを ATEN デフォルトにします。 ◆ リミックス:このモードでは、すべての接続ディスプレイに対して最適な EDID が送信されます。 ◆ FHD:このモードは、接続ソースに対して、ATEN の定義済み EDID (1920×1080@60Hz)を送信します。

(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Keyboard Emulation (キーボードエミュレーション)	有効/無効	キーボードエミュレーションを有効にすると、起動時におけるエラーを回避し、ホットキー機能を利用可能にします。 注意: ◆ PC キーボードの組み合わせは、Sun/Mac キーボードをエミュレートします。 ◆ Sun/Mac キーボードは、その OS が搭載されたコンピューターでのみ動作します。
Keyboard Emulation (マウスホイールによる切替)	有効/無効	この機能を有効にすると、マウスホイールを 2 回クリックしたときに次のポートに切り替えることができます。 注意: この機能は、3 ボタン USB ホイールマウスにのみ適用されます。
Power On Detection (電源 ON 検知)	有効/無効	この機能を有効にすると、KVM が選択されているコンピューターの電源が OFF になった場合に、CL3884NW は次の電源 ON のコンピューターへと切り替えます。
Window Frame (ウィンドウフレーム)	無効/3 秒/5 秒/10 秒/常に ON	この機能を有効にすると、現在選択されているコンピューターがどれであることをウィンドウフレームで示すことができます。

パスワード



設定	オプション	説明
パスワード		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
Password Protection (パスワード保護)	有効/無効	この機能を有効にすると、OSD メニューへのアクセスをパスワードで保護します。デフォルトのパスワードは「 password 」です。
Change Password (パスワード変更)	有効/無効	この機能を有効にすると、OSD メニューのログインパスワードを変更します。この設定は、パスワード保護が有効な場合にのみ使用できます。 注意: パスワードでは大文字と小文字が区別され、半角英数字のみがサポートされます。

メンテナンス



設定	オプション	説明
メンテナンス		
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。		
Firmware Upgrades (ファームウェアアップグレード)	Yes/キャンセル	ファームウェアのアップグレードを実行する際には、「Yes」を選択してください。ファームウェアのアップグレードの詳細については、p.135「ファームウェアアップグレードユーティリティー」を参照してください。
Save Configuration (設定の保存)	プロファイル 1/プロファイル 2/プロファイル 3/ プロファイル 4	現在の OSD 設定をバックアップするオプションを選択します。
Load Configuration (設定の読み込み)	プロファイル 1/プロファイル 2/プロファイル 3/ プロファイル 4	以前にバックアップした OSD 設定をロードするオプションを選択します。

(表は次のページに続きます)

設定	オプション	説明
Reset to Default (デフォルトへのリセット)	Yes/キャンセル	「Yes」を選択すると、CL3884NW の設定をデフォルトの値に戻します。
MFG No. (MFG 番号)	※読み取り専用	CL3884NW の製造番号を表示します。
EXT VER	※読み取り専用	CL3884NW のバージョンを表示します。

製造番号

「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別するために使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフに、この MFG 番号をお伝えください。

第5章

キーボードによるポート操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切り替えることができます。CL3884NW が提供しているホットキーの機能には以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替操作
- ◆ スキップモードによる切替操作
- ◆ コンピューターのキーボードおよびマウスのリセット

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ ポート OS の設定

ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードの起動には2つの方法があります。キーボードモジュールにある専用起動キーを押すか、指定された2つのキー入力を行ってください。どちらの方法でも構いませんが、一度に使用できるのは1種類だけです。

注意: ホットキーコマンド機能を有効にし、正しいホットキーが入力されていることを確認してください。詳細は p.95 を参照してください。

専用起動キー

ホットキーモードが簡単に起動できるように、下図のような専用キーがキーボードパネルに設けてあります。



注意: この専用キーはトグルボタンですので、1回目に押したときはホットキーモードを起動し、2回目に押したときはその機能を終了します。

[Num Lock]キーと[-]キーの組み合わせ

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して、このキーを押している指だけを離してください。
3. [Num Lock]キーからも指を離してください。

以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

[Ctrl]キーと[F12]キーの組み合わせ

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
4. [F12]キーを押して、このキーを押している指だけを離してください。
2. [Ctrl]キーからも指を離してください。

以降、このキー操作は [Ctrl] + [F12] と表記します。

ホットキーモードが有効になっている場合、CL3884NW には以下の動作が見られます。

- ◆ キーボードの Caps Lock と Scroll Lock の各 LED が交互に点滅し、ホットキーセッティングモードがアクティブであることを示します。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力は一時的に停止され、ホットキーとして割り当てられているキー入力(後続のセクションで説明)のみが可能です。
- ◆ ホットキーセッティングモードの起動用キーを変更する場合は、p.76「HSM」で詳細をご確認のうえ、操作を行ってください。

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

アクティブポートの選択

各ポートには固有のポート ID が割り当てられます (p.42「ポート ID の付番」参照)。ホットキーでこのポート ID を指定することで、CL3884NW に接続されているコンピューターに直接アクセスすることができます。ホットキーを使ってポートを切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. ポート ID を入力してください。
入力したポート ID は画面上に表示されます。入力を誤った場合は**[Backspace]**キーを使って消してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポート ID のコンピューターが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

注意: ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるかホットキーモードが終了されるまで画面上で表示されたままになります。

オートスキャンモード

オートスキャン機能とは、一定の時間間隔で自動的にポートを切り替えて表示する機能です。この機能によって、手動でポートの切替操作を行うことなく、KVM スイッチに接続されたコンピューターの状態を監視することができます。コンピューターのビデオ出力画面はポートからポートへと切り替わりますが、キーボードとマウスの操作および USB 周辺機器は切り替わらず、オートスキャンを開始したポートに留まったままの状態となっています。

オートスキャンモードが有効になっている間は、通常のキーボード/マウス操作はできません。この場合はオートスキャンモードに対応したキー入力とマウスクリックのみが使用できます。通常のコンソール操作を行うには、オートスキャンモードを終了する必要があります。

オートスキャン - 表示モード

オートスキャンモードは、フルスクリーンモード、ピクチャ・イン・ピクチャ (PiP) モードのデュアルおよびトリプル表示、またはピクチャ・バイ・ピクチャ (PbP) のデュアルおよびトリプル表示において動作します。PiP モードのデュアルまたはトリプル表示でオートスキャンを開始すると、サブ画面 (チャンネル) のうちの1つが、2 台または 3 台のコンピューターのオートスキャンを表示するのに使用されます。

クワッドビュー (4 分割表示) や PiP クワッド表示、または PoP 表示の場合、画面にすべてのコンピューターのビデオ出力が表示されているため、オートスキャンモードはご使用いただけません (p.47 「表示モード」参照)。

オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. **[A]**キーを押してから**[Enter]**キーを押してください。この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。
 - ◆ オートスキャンモードの実行中に、キーボードから**[P]**キーを押すか、マウスの左クリックをすると、特定のコンピューターでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「**Auto Scan : Paused**」という文字が表示されます。

オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回、一時停止したポートからスキャンを続行します。このため、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、後者の機能を利用したほうが便利です。

オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。スキャンが停止していた位置から再開します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。

注意： オートスキャンのスキャンインターバルは OSD メニューから変更することができます。

3. オートスキャンモードを終了する場合は、**[Esc]**キーまたは**スペースキー**を押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

コンピューターのキーボード/マウス/USB デバイスのリセット

製品に接続されたコンピューターの操作中にキーボードやマウス、また USB デバイスが機能しなくなった場合は、そのコンピューターでキーボード/マウス/USB デバイスのリセットを行ってください。この機能は、対象のコンピューターでキーボードやマウス、また、USB デバイスを外して接続しなおすのと同様の操作です。キーボード/マウス/USB デバイスのリセットを行うには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または**[Ctrl] + [F12]**

2. **[F5]**キーを押してください。

[F5]の入力後、ホットキーモードは自動的に解除され、KVM ポートに接続されたコンピューターでキーボード/マウス/USB デバイスの操作が再びできるようになります。[F5]の入力後でもコンピューターでキーボード/マウス/USB デバイスの操作ができない場合は、システムをリセットする必要があります。詳細は、p.17「CPU ポート選択ボタン/LED」を参照してください。

ホットキービープ音の ON/OFF 設定

ビープ音 (p.75「Activate Beeper (ビープ音の有効化)」参照) は下記のホットキーで On または Off にできます。ビープ音の設定を ON/OFF にするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. [B] キーを押してください。

[B] キーを押した後、ビープ音が ON または OFF になります。コマンドラインに 1 秒間「Beeper On」または「Beeper Off」と表示された後、そのメッセージは消え、自動的にホットキーモードを解除します。

ポート OS の設定

ポート OS はポートに接続されているコンピューターに合わせて変更することができます。ポートの OS を変更するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]

2. 下表に示された[ファンクション]キーのいずれかを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を SPC に設定する。
F2	ポート OS を Mac に設定する。
F3	ポート OS を Sun に設定する。
F10	ポート OS を Windows に設定する。

ファンクションキーの入力後、ホットキーモードは自動的に解除されます。

ブロードキャストモードの設定

ユーザーは、コンピューターが接続された KVM ポートに対して、ホットキーを使ってブロードキャストモードを設定することができます。

1. 以下のどちらかを入力して、ホットキーモードを起動してください。

[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]

2. [F11]キーを押してください。
3. [Enter]キーを押してください。

[F11]キーを押すと、ブロードキャストモードは ON または OFF に切り替わります。コマンドラインには「Broadcase Mode On」(ブロードキャストモード ON)または「Broadcase Mode Off」(ブロードキャストモード OFF)というメッセージが 1 秒間表示されます。その後、メッセージが消えて、ホットキーモードが自動的に終了します。

ホットキー一覧表

ホットキー		説明
[Scroll Lock] + [Scroll Lock]	または [Ctrl] + [Ctrl]	OSD メニューを有効にします。 [Esc]キーをクリックすると、OSDを終了し、PCの通常操作に戻ります。
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter]	オートスキャンモードを起動します。KVM 操作の選択は、5 秒間隔でポートを切り替えていきます。 オートスキャンのインターバル時間は OSD メニューから変更することができます。 オートスキャンモード起動時に[P]または左クリックするとオートスキャンを一時停止します。 オートスキャンの一時停止時、任意のキーを押すか左クリックするとオートスキャンが再開します。
	[A][n][Enter]	オートスキャンモードを起動し、指定したスキャンインターバルで、ポートの KVM 操作の選択を順番に切り替えていきます (n = 5、10、15、30、60、90 秒)。デフォルトのインターバル時間は 5 秒に設定されています。詳細は p.91「オートスキャンモード」を参照してください。
	[Enter]	すべてのデバイス(KVM、USB ハブ、オーディオ)の操作選択を、次のポートへと切り替えます。 (ポート1→ポート2、ポート2→ポート3、ポート3→ポート4、ポート4→ポート1)
	[ポ ー ト ID] [Enter]	ポートID(1、2、3、4のいずれか)に対応したコンピューターへと切り替えます。

(表は次のページに続きます)

ホットキー	説明	ホットキー
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] (続き)	[ポート ID][デバイス] [Enter]	<p>KVM、USB、オーディオ(マイクおよびスピーカー)の操作選択を、1 段階目のステーションにおける特定のポートに接続されたコンピューターへと切り替えます。</p> <p>[ポート ID]には、対象となるコンピューターを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [ポート ID]を省略した場合、CL3884NW は次のコンピューターにおける特定のデバイスへと切り替えます。 ◆ [ポート ID] = 1、2、3、4 のいずれか <p>[デバイス]には、操作選択の対象となるデバイスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [デバイス] = K または未指定 (KVM) ◆ [デバイス] = U (USB ハブ) ◆ [デバイス] = S (マイクおよびスピーカー) <p>コンピューターに対して、2～3 種類のデバイスを同時に切り替える場合は、[デバイス]の部分に複数のキーを入力してください。例えば、[ポート ID][K][U]と指定した場合は、そのポート ID に接続されたコンピューターに対して、KVM と USB ハブの操作を切り替えます。</p>
	[C][n][Enter]	<p>お使いの CL3884NW とディスプレイ B(セカンドコンソール)の表示モードを変更します。[n]の部分には、表示モードを適宜設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ n = 1 (CL3884NW はマルチビューモードで、ディスプレイ B はフルスクリーンモードで、それぞれ表示されます) ◆ n = 2 (CL3884NW はフルスクリーンモードで、ディスプレイ B はマルチビューモードで、それぞれ表示されます) ◆ n = 3 (CL3884NW とディスプレイ B の両方において、マルチビューモードで表示されます)

(表は次のページに続きます)

ホットキー	説明	ホットキー
[Num Lock] + [-]	[B][Enter]	ビープ音を ON/OFF に切り替えます。
または [Ctrl] + [F12] (続き)	[L][Enter]	フロントパネルのプッシュボタンをブロック解除またはブロックします。詳細は、p.17「CPU ポート選択ボタン/LED」および p.17「マルチビューモード&表示モードボタン/LED」を参照してください。
	[J][Enter]	CL3884NW のマウスカーソルの選択に従ってビデオソースを切り替えるのに、ディスプレイ B(セカンドコンソール)と同期または同期解除します。
	[J][n][Enter]	特定の PC ポートを選択している時に使用するフルスクリーン画面を選択します。[n]は、表示されるビデオのソースを指定します。 ◆ n = 1(PC ポート 1) ◆ n = 2(PC ポート 2) ◆ n = 3(PC ポート 3) ◆ n = 4(PC ポート 4)
	[V][n][Enter]	KVM スイッチに対して EDID (n)を設定します。 ◆ n = 1 (CL3884NW に対して EDID を使用) ◆ n = 2 (ディスプレイ B に対して EDID を使用)。ディスプレイ B はセカンドコンソールです。 ◆ n = 3 (EDID をリミックスモードに設定します。これによって、CL3884NW は最適な EDID を使用するようになります) ◆ n = 4 (EDID を FHD (1920 × 1080 @60Hz) に設定します)
	[P][n][Enter]	特定の表示モード (n) に切り替えます。表示モードに関する詳細は p.47「表示モード」を参照してください。 ◆ n = 0 (PoP) ◆ n = 1 (クワッドビュー) ◆ n = 2 (PiP デュアルビュー) ◆ n = 3 (PiP トリプルビュー) ◆ n = 4 (PiP クワッドビュー) ◆ n = 5 (PbP デュアルビュー) ◆ n = 6 (PbP トリプルビュー) ◆ n = 7 (PbP クワッドビュー)

(表は次のページに続きます)

ホットキー	説明	ホットキー
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] (続き)	[F][n][Enter]	特定の Fn プリセット設定を適用します ($n = 1, 2, 3, 4$ のいずれか)。Fn プリセット設定の詳細は、p.65「プリセット設定」を参照してください。 ◆ $n = 1$ (Fn1 キーの設定を実行します) ◆ $n = 2$ (Fn2 キーの設定を実行します) ◆ $n = 3$ (Fn3 キーの設定を実行します) ◆ $n = 4$ (Fn4 キーの設定を実行します)
	[E][Enter]	電源状態検知機能を有効または無効にします。この機能を有効にすると、KVM が選択されているコンピューターの電源が OFF になった場合に、CL3884NW は次の電源 ON のコンピューターへと切り替えます。
	[H][Enter]	ハードウェアカーソルモードを有効または無効にします。
	[F1][Enter]	SPC キーボードエミュレーションを有効にします。
	[F2][Enter]	Mac キーボードエミュレーションを有効にします。
	[F3][Enter]	Sun キーボードエミュレーションを有効にします。
	[F10][Enter]	Windows キーボードエミュレーションを有効にします。これはデフォルト設定です。
	[N][Enter]	キーボードエミュレーションを有効または無効にします。
	[W][Enter]	コンソールマウスを使ったマウスポート切替機能を有効または無効にします。 マウスによるポート切替を有効にしている場合は、ポート切替とホイールの 2 度押しで次の PC へと切り替えることができます。
	[F4][Enter]	CL3884NW における現在の設定を一覧表示します。この機能を使うには、テキストエディターやワープロソフトを起動し、HSM を起動する前に画面内にカーソルを置いた状態にしてからホットキーを入力してください。
	[F5][Enter]	対象となるコンピューターにおいて、キーボード/マウスのリセットを実行します。
	[F6][Enter]	CL3884NW がローカルキーボードのキーボード言語を自動検出するように設定します。これらのオプションを利用できるようにするには、OSD メニューでキーボードエミュレーション機能を有効にしておいてください。

(表は次のページに続きます)

ホットキー	説明	ホットキー
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] (続き)	[F6][<i>nn</i>][Enter]	[<i>nn</i>]にはキーボード言語を設定します。 ◆ <i>nn</i> = 33 (英語)
	[F11][Enter]	ブロードキャストモードを有効または無効にします。
	[O][Enter]	ウィンドウフレームを無効にします。これはデフォルト設定です。
	[O][<i>n</i>][Enter]	ウィンドウフレームを有効にします。[<i>n</i>]には、ウィンドウフレームのインターバル時間を設定します。 ◆ <i>n</i> = 0 (ウィンドウフレームが点灯したままになります) ◆ <i>n</i> = 1 (ウィンドウフレームが 3 秒間点灯します) ◆ <i>n</i> = 2 (ウィンドウフレームが 5 秒間点灯します) ◆ <i>n</i> = 3 (ウィンドウフレームが 10 秒間点灯します)
	[u] [p] [g] [r] [a] [d] [e] [Enter]	ファームウェアアップグレードを開始します。
	[T][Enter]	タッチパッドとセカンドコンソール側のマウスの両方で、PC ソースを同時に操作できるよう設定します。これはデフォルト設定です。

(表は次のページに続きます)

ホットキー	説明	ホットキー
[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] (続き)	[T][L][Enter] [T][R][Enter]	<p>タッチパッドまたはセカンドコンソール側のマウスで、PC ソース、OSD、マルチスクリーンコントロールを操作できるように設定します。デフォルトでは、タッチパッドに設定されています。</p> <p>◆ [T][L]を指定すると、タッチパッドが、PC ソース、OSD、マルチスクリーンコントロールを操作できるようになります。</p> <p>注意:タッチパッドが設定されていると、セカンドコンソールに接続されたマウスはバイパスモードになります。このとき、マウスが操作できるのは PC ソースのみで、OSD とマルチスクリーンコントロールは操作することができなくなります。</p> <p>◆ [T][R]を指定すると、セカンドコンソールのマウスが、PC ソース、OSD、マルチスクリーンコントロールを操作できるようになります。</p> <p>注意:セカンドコンソール側のマウスが設定されていると、タッチパッドはバイパスモードになります。このとき、タッチパッドが操作できるのは PC ソースのみで、OSD とマルチスクリーンコントロールは操作することができなくなります。</p>
	[Esc]または [スペースキー]	ホットキーモードを終了するか、ホットキーセッティングモードを終了します。

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード

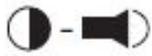
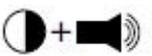
キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

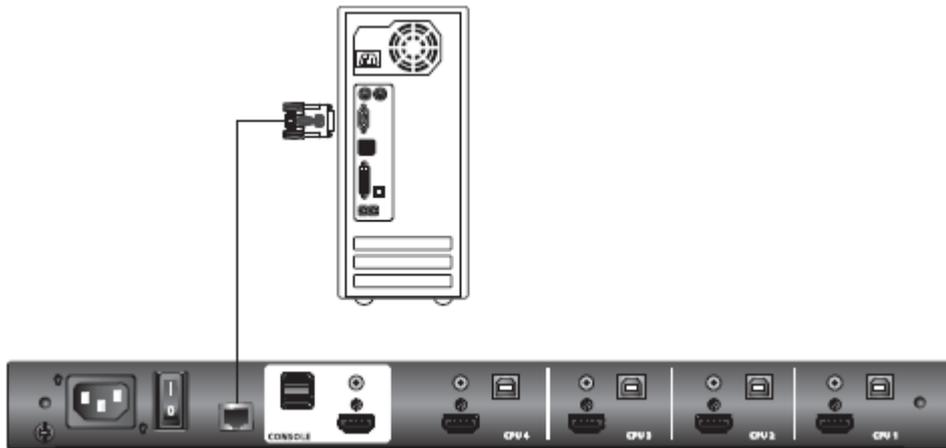
RS-232C による操作

概要

CL3884NW は、PC やシリアルリモートコントローラー経由で送信される RS-232C コマンドを介してシステム制御を行うことができます。

セットアップ

1. お使いのコントローラーまたは PC を、CL3884NW に接続してください。
お使いのコンピューターにある RS-232C シリアルポートと、CL3884NW の RS-232C 入力ポートを、RJ-45 → DB-9 シリアルアダプターで下図のように接続してください (RJ-45 → DB-9 シリアルアダプターは製品パッケージに同梱されていません)。



CL3884NW の RJ-45 および RS-232C ポートのピンアサインは下表のとおりです。

CL3884NW RJ-45 ポート	
信号	ピン
TxD	3
GND	5
RxD	6

2. RS-232C シリアル制御とお使いのコントローラーPC の操作に対応したコントローラーソフトウェアをダウンロードしてください。

3. ソフトウェアを実行して、次のとおりに接続設定を行ってください。
 - ◆ 接続するシリアル回線:COM1
 - ◆ 速度(ボーレート):19200
 - ◆ データビット:8
 - ◆ ストップビット:1
 - ◆ パリティ:なし
 - ◆ フロー制御:なし

4. CL3884NW とのセッションが確立すると、コントローラーPC から RS-232C コマンドを使って CL3884NW を操作できるようになります。コマンドの詳細は p.105「RS-232C コマンド」を参照してください。

RS-232C コマンド

このセクションでは、本製品で使用できる RS-232C コマンドとその構文について説明します。

コマンドの入力確認

コマンドが送信されると、下表のような確認メッセージがコマンドラインの最後に表示されます。

応答メッセージ	説明
Command OK	コマンドやパラメーターは正確です。
Command incorrect	コマンドやパラメーターが間違っています。
NOT Login	RS-232C でログインせずにコマンドが送信されました。
login OK	正しいパスワードでログインに成功しました。
login FAIL	パスワードが間違っています。
SETTING OK	「save」パラメーターに対応した一部のコマンドで、このパラメーターを使った場合、システム側で現在の入力コマンドおよびパラメーターのすべてをチェックし、コマンドやパラメーターがすべて正しければ、「SETTING OK」のメッセージを応答します。そうでない場合は、システム側で「SETTING FAIL」のメッセージを応答します。
SETTING FAIL	「save」パラメーターに対応した一部のコマンドで、このパラメーターを使った場合、システム側で現在の入力コマンドおよびパラメーターのすべてをチェックし、コマンドやパラメーターに誤りがある場合は、システム側で「SETTING FAIL」のメッセージを応答します。

ログイン

「login」コマンドは、CL3884NW にログインして RS-232C コマンドを送信できる状態にします。ログインして RS-232C リンクがオープン状態になると、CL3884NW は RS-232C リンクをクローズするまで RS-232C コマンド以外を受け付けなくなり、フロントパネルのプッシュボタン操作やホットキー入力、OSD、リモート制御信号には反応しなくなります (p.108「RS-232C リンクのオープン/クローズ」参照)。ユーザーネームとパスワードに関する情報については、p.120「セキュリティ」を参照してください。次の構文を使って、コマンドを実行してください。

コマンド + 操作 + 番号 + [Enter]

コマンド	説明
login	ログインコマンド

操作	説明
p	パスワードを入力します。

番号	説明
XXXXXX	6 桁のパスワード $x = 0 \sim 9$

例えば、「123456」というパスワードでシステムにログインするには、下記のコマンドを入力してください。

login p123456 [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

ログアウト

「logout」コマンドは、CL3884NW からログアウトして RS-232C リンクを終了します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+[Enter]

コマンド	説明
logout	ログアウトコマンド

例えば、CL3884NW からログアウトするには、下記のコマンドを入力してください。

logout [Enter]

注意: RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

RS-232C リンクのオープン/クローズ

「open」と「close」の各コマンドは、RS-232C コマンドを送信するコンピューターと CL3884NW との間におけるリンクを、それぞれ開始したり終了したりすることができます。リンクがオープンすると、CL3884NW はシリアル接続をクローズするまで RS-232C コマンド以外を受け付けなくなり、フロントパネルのプッシュボタン操作やホットキー入力、OSD、リモート制御信号には反応しなくなります。リンクはログインすると開始し、コマンド送信終了の 30 秒後に終了します。タイムアウトの設定を変更する場合は、OSD メニューのログアウトタイムアウトの設定を変更してください(p.75 参照)。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+[Enter]

コマンド	説明
open	RS-232C リンクをオープンします。
close	RS-232C リンクをクローズします。

例えば、コンピューターと CL3884NW の間で RS-232C リンクをオープンするには、下記のコマンドを入力してください。

open [Enter]

例えば、コンピューターと CL3884NW の間における RS-232C リンクをクローズするには、下記のコマンドを入力してください。

close [Enter]

注意: RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

ポートの切替

「sw」コマンドは、CL3884NW のポートに接続されているコンピューターの切替を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+入力コマンド+[Enter]

コマンド	説明
sw	ポート切替コマンド

入力コマンド	説明
p x	入力ポート番号 $x = 1 \sim 4$ (デフォルト:1) 例:p2

例えば、ポート 2 に接続されたコンピューターへ切り替えるには、下記のコマンドを入力してください。

sw p2 [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. **ポート番号**のパラメーターは省略することができます。この場合は、デフォルト値が使用されます。
 3. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

PiP モード

「pip」コマンドは、ピクチャ・イン・ピクチャモードの設定を変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

PiP 設定の定義:

コマンド+設定 1+設定 2+設定 3+設定 4+設定 5+[Enter]

PiP 設定の実行:

コマンド+実行+[Enter]

PiP の詳細設定:

コマンド+操作 1+操作 2+設定 1+設定 2+実行+[Enter]

コマンド	説明
pip2	ピクチャ・イン・ピクチャモード(デュアル表示)
pip3	ピクチャ・イン・ピクチャモード(トリプル表示)
pip4	ピクチャ・イン・ピクチャモード(クワッド表示)

操作	説明
c.xp.y	c = 出力チャンネル x = 1~4 p = 入力ポート番号 y = 1~4 例:c2p4

例えば、ピクチャ・イン・ピクチャモードのトリプル表示でのチャンネルスキャンを有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

pip3 c2scanon [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. **ポート番号**のパラメーターは省略することができます。この場合は、デフォルト値が使用されます。
 3. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

クワッドビューモード

「quad」コマンドは、クワッドビューモードの設定を変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作 1+操作 2+操作 3+操作 4+[Enter]

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
quad	クワッドビューモードコマンド

操作	説明
c.xp.y	c = 出力チャンネル x = 1~4 p = 入力ポート番号 y = 1~4 例:c2p4
default	クワッドビューモードをリセットして、デフォルト設定に戻します。 例:c1p1~c4p4

例えば、クワッドビューモードを設定するには、下記のコマンドを入力して 4 つのチャンネルを設定する必要があります。

quad c1p1 c2p2 c3p3 c4p4 [Enter]

例えば、クワッドビューモードをデフォルト設定に戻すには、下記のコマンドを入力してください。

quad default [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

表示モードの変更

「display」コマンドは、使用中の表示モードを変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
display	表示モード変更コマンド

操作	説明
full	コンソールポートのフルスクリーン表示を有効にします。
quad	クワッド表示モードを有効にします。このとき、コンソールポートの選択は同じままです。
pip2	ピクチャ・イン・ピクチャモードのデュアル表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択はチャンネル1とチャンネル2では同じままで、現在表示されているコンソールポートの次のポートのビデオを表示します。
pip3	ピクチャ・イン・ピクチャモードのトリプル表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択はチャンネル1では同じままで、チャンネル2とチャンネル3では現在表示されているコンソールポートの次のポートのビデオを表示します。
pip4	ピクチャ・イン・ピクチャモードのクワッド表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択はチャンネル1では同じままで、チャンネル2、チャンネル3、およびチャンネル4では、現在表示されているコンソールポートの次のポートのビデオを表示します。
pop	ピクチャ・オン・ピクチャモードを有効にします。コンソールポートの選択状態は同じままです。
pbp1	ピクチャ・オン・ピクチャモードのデュアル表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択状態は同じままです。
pbp2	ピクチャ・オン・ピクチャモードのトリプル表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択状態は同じままです。
pbp3	ピクチャ・オン・ピクチャモードのクワッド表示を有効にします。このとき、コンソールポートの選択状態は同じままです。

例えば、クワッド表示モードに設定するには、下記のコマンドを入力してください。

`display quad [Enter]`

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

ポートの無効化

「chn」コマンドは、現在表示されているポートの表示を無効にします。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+入力コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
chn	ポート無効化コマンド

入力コマンド	説明
p x	入力ポート番号 $x = 1 \sim 4$ 例:p3

操作	説明
on	チャンネル表示を無効にします。
off	チャンネル表示を有効にします。

例えば、ポート 4 に接続されたコンピューターのビデオ出力を無効にするには、下記のコマンドを入力してください。

chn p4 on [Enter]

例えば、ポート 1 に接続されたコンピューターのビデオ出力を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

chn p1 off [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

OSD 言語

「lang」コマンドは、OSD 言語の設定を変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
lang	OSD 言語コマンド

操作	説明
us	OSD 言語を英語に変更します。
ger	OSD 言語をドイツ語に変更します。
fr	OSD 言語をフランス語に変更します。
jp	OSD 言語を日本語に変更します。
tc	OSD 言語を中国語(繁体字)に変更します。
sc	OSD 言語を中国語(簡体字)に変更します。
ru	OSD 言語をロシア語に変更します。
ita	OSD 言語をイタリア語に変更します。
ko	OSD 言語を韓国語に変更します。

例えば、OSD 言語を中国語(繁体字)に変更するには、下記のコマンドを入力してください。

lang tc [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロス回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

キーボード言語レイアウト

「layout」コマンドは、キーボード言語レイアウトの設定を変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
layout	キーボード言語レイアウトコマンド

操作	説明
auto	キーボード言語レイアウトを変更し、ローカルキーボードの言語を自動検出します。
en	キーボード言語レイアウトを英語に変更します。

例えば、キーボード言語レイアウトを自動検出に変更するには、下記のコマンドを入力してください。

layout auto [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

OS の設定

「os」コマンドは、ポートに対する OS 設定を変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+入力コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
os	OS 設定コマンド

入力コマンド	説明
px	入力ポート番号 $x = 1 \sim 4$ (デフォルト:1) 例:p2

操作	説明
auto	OS を Windows に変更します。
mac	OS を Mac に変更します。
sun	OS を Sun に変更します。
spc	OS を SPC (Linux) に変更します。

例えば、ポート 3 の OS を Mac に設定するには、下記のコマンドを入力してください。

os p3 mac [Enter]

例えば、ポート 2 の OS を自動検出するには、下記のコマンドを入力してください。

os p2 auto [Enter]

注意:

1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

オートスキャン

「scan」コマンドは、オートスキャンモードを有効にし、設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
scan	オートスキャンコマンド

操作	説明
all	すべてのポートを対象にオートスキャンを実行します。
pon	電源が入っているコンピューターのみを対象にオートスキャンを実行します。
t.xx	スキャンの実行中に KVM を選択するスキャンインターバルを設定します。 xx = 5、10、15、60、90 (秒) 例:t60

例えば、すべてのポートを対象にオートスキャンを実行するには、下記のコマンドを入力してください。

scan all [Enter]

例えば、各ポートを 15 秒間隔でオートスキャンするには、下記のコマンドを入力してください。

scan t15 [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

ポート ID の設定

「portid」コマンドは、各ポートに対する ID の設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
portid	ポート ID 設定コマンド

操作	説明
p.xyy	ポート ID を変更します。 x = 1~4 (現在のポート ID) yy = 半角の A~Z, a~z, 0~9, ダッシュ、アンダーバーを使用した、20 文字以内の文字列(新しいポート ID)
default	すべてのポート ID を工場出荷時におけるデフォルト設定にリセットします。

例えば、すべてのポート ID を工場出荷時におけるデフォルト設定にリセットするには、下記のコマンドを入力してください。

portid default [Enter]

例えば、ポート 4 の ID を「Computer_A」に変更するには、下記のコマンドを入力してください。

portid p4 Computer_A [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

セキュリティ

「security」コマンドは、パスワードで OSD メニューへのアクセスを保護します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
security	セキュリティコマンド

操作	説明
off	OSD メニューのパスワード保護機能を無効にします。
on	OSD メニューのパスワード保護機能を有効にします。

例えば、OSD メニューのパスワード保護機能を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

security on [Enter]

注意:	1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
	2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

キーボードエミュレーション

「kbemu」コマンドは、キーボードエミュレーション機能の設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
kbemu	キーボードエミュレーションコマンド

操作	説明
off	キーボードエミュレーション機能を無効にします。
on	キーボードエミュレーション機能を有効にします。

例えば、キーボードエミュレーション機能を無効にするには、下記のコマンドを入力してください。

kbemu off [Enter]

例えば、キーボードエミュレーション機能を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

kbemu on [Enter]

注意:	1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
	2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。

ビデオダイナシク

「vds」コマンドは、EDID の設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
vds	ビデオダイナシクコマンド

操作	説明
default	すべての接続ディスプレイ間で EDID を ATEN のデフォルト設定にします。 ◆ 解像度は 1920×1080@60Hz です。
port1	CL3884NW のポート 1 に接続されているモニターの EDID に設定します。
remix	最適な EDID をすべての接続ディスプレイへと送信します。

例えば、デフォルト EDID に設定するには、下記のコマンドを入力してください。

vds default [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

ハードウェアカーソル

「hc」コマンドは、ハードウェアカーソル機能の設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
hc	ハードウェアカーソルコマンド

操作	説明
off	ハードウェアカーソル機能を無効にします。
on	ハードウェアカーソル機能を有効にします。

例えば、ハードウェアカーソル機能を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

hc on [Enter]

注意:	1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
	2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。

ビーブ音の出力設定

「beeper」コマンドは、ビーブ音の出力設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
beeper	ビーブ音出力設定コマンド

操作	説明
off	ビーブ音の出力を無効にします。
on	ビーブ音の出力を有効にします。

例えば、ビーブ音の出力を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

beeper on [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

ホットキーの設定

「hotkey」コマンドは、ホットキー機能を有効または無効に設定したり、ホットキーセッティングモード (HSM) の起動に使用されるホットキーを変更したりします。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド + 操作 + [Enter]

コマンド	説明
hotkey	ホットキー設定コマンド

操作	説明
num	HSM 起動キーを[Num Lock] + [-]に変更します。
f12	HSM 起動キーを[Ctrl] + [F12]に変更します。
off	ホットキー機能を無効にします。
on	ホットキー機能を有効にします。

例えば、ホットキー機能を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

hotkey on [Enter]

例えば、HSM 起動キーを[Ctrl] + [F12]に変更するには、下記のコマンドを入力してください。

hotkey f12 [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロス回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

OSD ホットキー

「osdkey」コマンドは、OSD の起動に使用されるホットキーを変更します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
osdkey	OSD ホットキーコマンド

操作	説明
scroll	OSD 起動キーを[Scroll Lock]キーの 2 度押しに変更します。
ctrl	OSD 起動キーを[Ctrl]キーの 2 度押しに変更します。

例えば、OSD 起動キーを[Scroll Lock]キーの 2 度押しに変更するには、下記のコマンドを入力してください。

osdkey scroll [Enter]

例えば、OSD 起動キーを[Ctrl]キーの 2 度押しに変更するには、下記のコマンドを入力してください。

osdkey ctrl [Enter]

注意:	1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
	2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

電源状態検知機能

「pod」コマンドは、電源状態検知機能の設定を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
pod	電源状態検知機能設定コマンド

操作	説明
on	ビープ音の出力を有効にします。
off	ビープ音の出力を無効にします。

例えば、電源状態検知機能を有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

pod on [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

ファンクションキー

「fn」コマンドは、選択されたポートの表示設定に対するファンクションキーの保存および選択を行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
fn	ファンクションキーコマンド

操作	説明
save x	現在の選択ポートに対する表示設定を保存します。 $x = 1 \sim 4$ 例:save3
default	すべてのファンクションキーの設定をデフォルトに戻します。
select x	現在の選択ポートに対する表示設定を有効にします。 $x = 1 \sim 4$ 例:select2

例えば、表示設定と現在のポート選択を Fn1 として保存するには、下記のコマンドを入力してください。

fn save1 [Enter]

例えば、すべてのファンクションキーの設定をデフォルトに戻すには、下記のコマンドを入力してください。

fn default [Enter]

注意:

1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

USBのリセット

「usbreset」コマンドは、USB 接続のリセットを行います。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
usbreset	USB リセットコマンド

操作	説明
on	USB 接続のリセットを有効にします。

例えば、USB 接続のリセットを行うには、下記のコマンドを入力してください。

usbreset on [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

デフォルト値のリストア

「redefault」コマンドは、CL3884NW におけるすべての設定をリセットし、デフォルト値に戻します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
redefault	デフォルト値のリストアコマンド

操作	説明
on	デフォルト値のリストアを有効にします。

例えば、CL3884NW におけるすべての設定をリセットし、デフォルト値に戻すには、下記のコマンドを入力してください。

redefault on [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。
-

ファームウェアのアップグレード

「upgrade」コマンドは、ファームウェアアップグレードモードを有効にします。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+操作+[Enter]

コマンド	説明
upgrade	ファームウェアアップグレードコマンド

操作	説明
on	ファームウェアアップグレードモードを有効にします。

例えば、ファームウェアアップグレードモードを有効にするには、下記のコマンドを入力してください。

upgrade on [Enter]

-
- 注意:**
1. コマンド文字列は、それぞれスペースで区切ってください。
 2. RS-232C コマンドのロス回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を2秒以上空けることを推奨します。
-

ファームウェアアップグレードに関する詳しい手順については、p.131「ファームウェアのアップグレード」を参照してください。

KVM の状態確認

「status」コマンドは、CL3884NW における現在の設定状況を読み取り専用で表示します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+[Enter]

コマンド	説明
status	KVM の状態確認コマンド

例えば、CL3884NW における設定状況を表示するには、下記のコマンドを入力してください。

status [Enter]

注意: RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

ホットキー一覧

「list」コマンドは、CL3884NW の KVM ホットキーを一覧表示します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+[Enter]

コマンド	説明
list	ホットキーリストコマンド

例えば、KVM ホットキーを一覧表示するには、下記のコマンドを入力してください。

list [Enter]

注意: RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

バージョン情報

「info」コマンドは、CL3884NW における現在のファームウェアバージョンや著作権に関する情報を表示します。次の構文を使ってコマンドを実行してください。

コマンド+[Enter]

コマンド	説明
info	バージョン情報コマンド

例えば、CL3884NW におけるデバイス情報を表示するには、下記のコマンドを入力してください。

info [Enter]

注意: RS-232C コマンドのロスを回避するには、RS-232C コマンドの実行間隔を 2 秒以上空けることを推奨します。

第8章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

CL3884NW の新しいファームウェアが利用できるようになると、弊社 Web サイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>)にそのパッケージが公開されます。弊社 Web サイトにて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

CL3884NW のファームウェアをアップグレードするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 製品パッケージに同梱されている KVM ケーブルで、コンピューターの USB ポートと CL3884NW を接続してください。

注意: アップグレードを行う際には、製品本体にあるファームウェアアップグレードスイッチをスライドさせて「NORMAL」の位置に合わせてください。

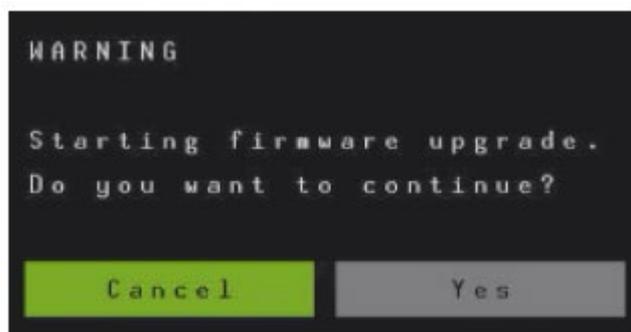
2. ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。
 - a) 手順 1 で CL3884NW に接続したコンピューターから、弊社 Web ページにアクセスしてください。
 - b) 「サポート情報」をクリックし、CL3884NW のファームウェアアップグレードパッケージ(通常は最新版)をダウンロードしてください。
3. 下記のいずれかの方法を用いて、ファームウェアアップグレードモードを有効にしてください。
 - ◆ OSD メニューで「メンテナンス」に進み、「ファームウェアアップグレード」を選択してから [Enter] キーを押す。
 - ◆ ホットキーでホットキーセッティングモードを起動し、[u] [p] [g] [r] [a] [d] [e] の各キーを押す。

した後、[Enter]キーを押す。

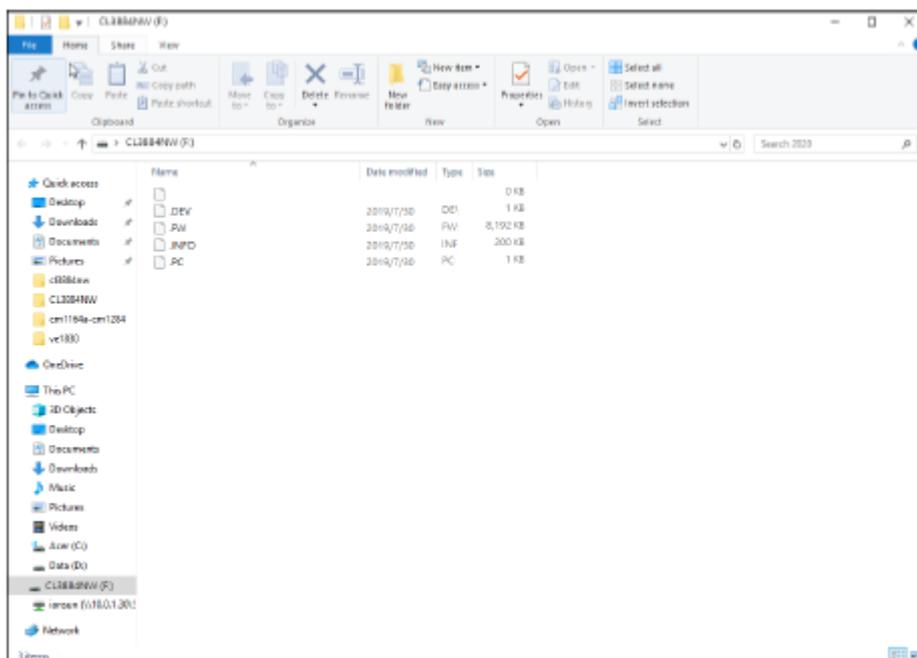
そうすると、CL3884NW ではすべてのLED がオレンジ色に点滅し、ファームウェアアップグレードモードが有効であることを表します。

注意： アップグレードの実行中は、コンソールマウスの操作とホットキー機能が無効になります。

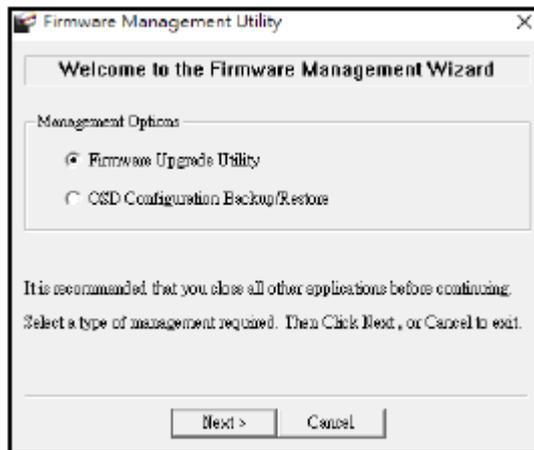
4. 確認画面が表示されたら、[Yes]を押して、ファームウェアアップグレードモードを起動してください(p.85 参照)。



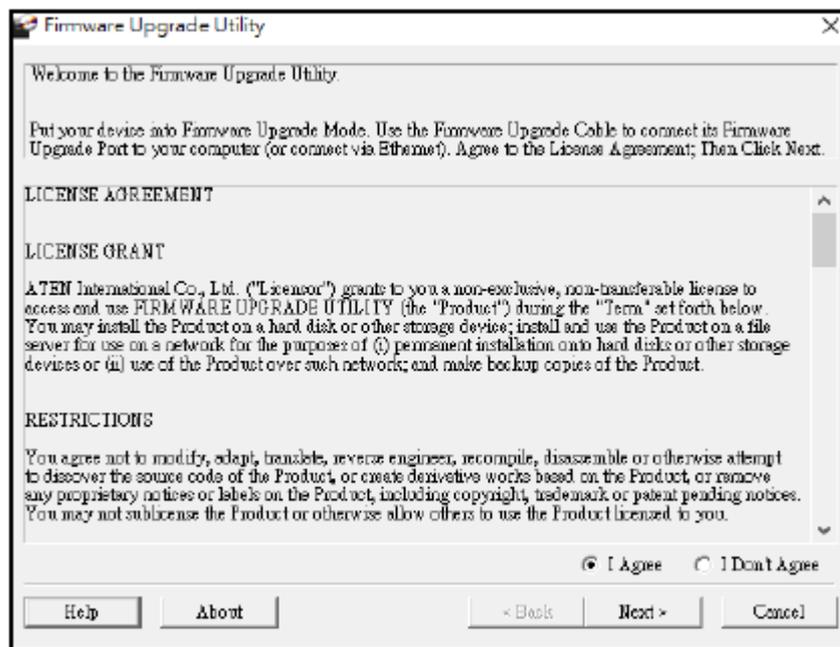
5. [Yes]を押すと、下図のような画面が表示されます。



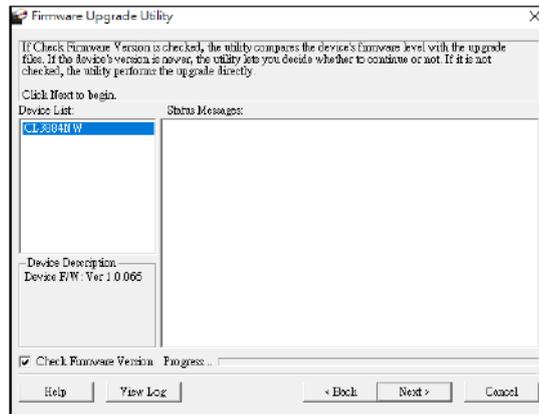
6. ダウンロードしたパッケージにある実行ファイルをダブルクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



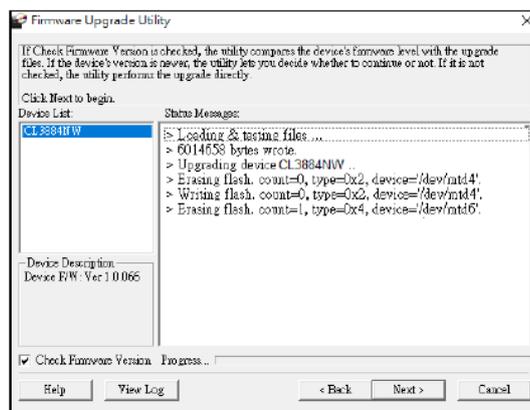
7. 「Firmware Upgrade Utility」(ファームウェアアップグレードユーティリティ)のラジオボタンを選択して、「Next」(次へ)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



8. ライセンス使用許諾契約を確認し、同意する場合は「I Agree」(同意する)ボタンを有効にしてから「Next」(次へ)ボタンをクリックしてください。そうすると、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示され、このパッケージでアップグレードできる全デバイスが「Device List」(デバイスリスト)パネルに一覧表示されます。

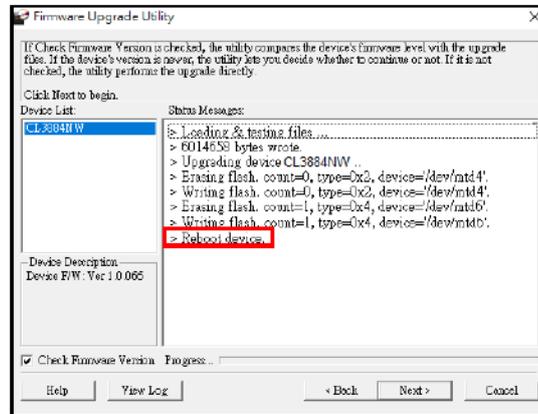


9. 「Device List」(デバイスリスト)からデバイスを選択し、「Next」(次へ)をクリックして、アップグレードを実行してください。アップグレードの状態は「Status Message」(ステータスメッセージ)欄に表示されます。



注意: 「Check Firmware Version」(ファームウェアバージョンをチェックする)の項目を有効にすると、ユーティリティはデバイスとアップグレードファイルの間でファームウェアバージョンを比較します。デバイスのバージョンがアップグレードバージョンよりも新しい場合は、操作を続行するかどうかの選択を促すダイアログが表示されます。

10. アップグレードが完了すると下図のような画面が表示され、製品本体が自動的に再起動します。



バックアップ/リストア

CL3884NW の OSD 設定をバックアップ/リストアするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. コンピューターの USB ポートと CL3884NW を、製品パッケージに同梱されている KVM ケーブルで接続してください。

注意: アップグレードを行う際には、製品本体にあるファームウェアアップグレードスイッチをスライドさせて「NORMAL」の位置に合わせてください。

2. CL3884NW の最新ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

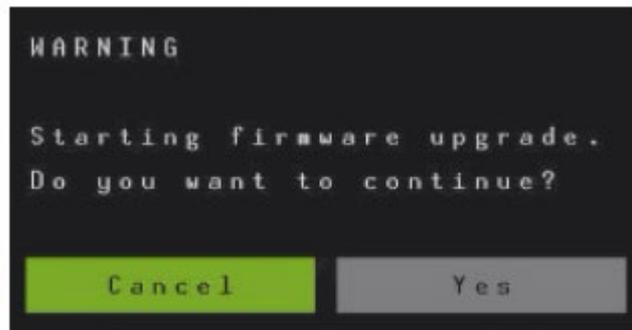
- a) CL3884NW に接続したコンピューターから、弊社 Web ページにアクセスしてください。
- b) 「**サポート情報**」をクリックし、CL3884NW のファームウェアアップグレードパッケージ(通常は最新版)をダウンロードしてください。

3. 下記のいずれかの方法を用いて、ファームウェアアップグレードモードを有効にしてください。
 - ◆ OSD メニューで「メンテナンス」に進み、「ファームウェアアップグレード」を選択してから [Enter] キーを押す。
 - ◆ ホットキーでホットキーセッティングモードを起動し、[u] [p] [g] [r] [a] [d] [e] の各キーを押した後、[Enter] キーを押す。

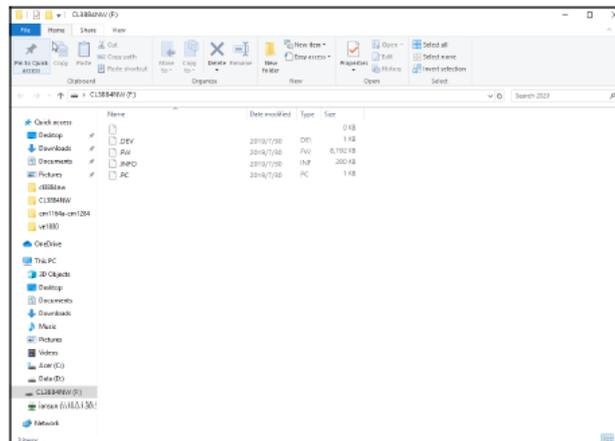
そうすると、CL3884NW ではすべての LED がオレンジ色に点滅し、ファームウェアアップグレードモードが有効であることを表します。

注意: アップグレードの実行中は、コンソールマウスの操作とホットキー機能が無効になります。

4. 確認画面が表示されたら、[Yes]を押して、ファームウェアアップグレードモードを起動してください(p.85 参照)。



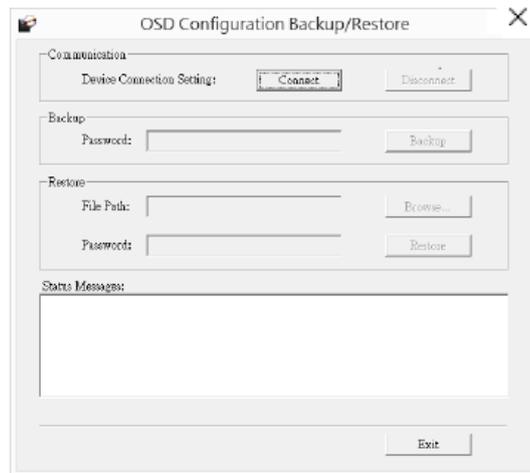
5. [Yes]を押すと、下図のような画面が表示されます。



6. ダウンロード済のファームウェアアップグレードパッケージファイルのアイコンをダブルクリックして、パッケージを実行してください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



7. 「OSD Configuration Backup/Restore」(OSD 設定のバックアップ/リストア)のラジオボタンを選択して、「Next」(次へ)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



8. 「Connect」(接続)をクリックして、CL3884NW との通信を確立してください。そうすると、「Status Messages」(ステータスメッセージ)パネルに下図のようなメッセージが表示されます。



9. OSD 設定のバックアップを取るには、下記の手順に従って操作を行ってください。
- (オプション)この設定ファイルの内容を CL3884NW に適用するにあたって必要となるパスワードを入力してください。
 - 「Backup」(バックアップ)をクリックして画面に表示された指示に従って操作を行い、設定ファイルを保存してください。バックアップが完了すると、「Status Messages」(ステータスメッセージ)パネルに「Completed」(完了)というメッセージが表示されます。
10. OSD 設定のリストアを行うには、下記の手順に従って操作を行ってください。
- 「参照」をクリックして、保存されたバックアップ設定ファイルを選択してください。
 - (オプション)バックアップ作成時に設定されたパスワードを入力し、「Restore」(リストア)をクリックしてください。
 - 画面に表示された指示に従って操作を行ってください。設定内容がリストアされると、「Status Messages」(ステータスメッセージ)パネルに「Restore OSD configuration : OK」(OSD 設定のリストア:OK)というメッセージが表示されます。
 - 設定内容がリストアされると、CL3884NW は自動的に再起動します。

アップグレードに失敗したら

ファームウェアアップグレードに失敗する場合は、次の理由が考えられます。

- ◆ ファームウェアアップグレードが手動で中止された場合。
- ◆ 製品のアップグレードが何らかの理由により中断され、操作できなくなった場合。
- ◆ ファームウェアアップグレードの途中で割り込みが入った場合。
- ◆ ファームウェアアップグレードの進行が失敗した場合。

ファームウェアアップグレードリカバリーを行うには、下記の手順に従ってください。

1. CL3884NW の電源を切ってください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルをファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置にスライドしてください。
4. CL3884NW に電源を入れ、アップグレードを手順に従って再度実行してください。
5. CL3884NW のアップグレードに成功したら、電源を切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを元の「NORMAL」の位置に戻してください。
6. CL3884NW に他の KVM スイッチをカスケード接続して使用している場合は、必要なデバイスを接続しなおして、機器構成を元に戻してください。
7. CL3884NW の電源を入れてください。

注意: ファームウェアのリカバリーを行ってもシステムの復帰ができない場合は、製品のご購入元か、弊社技術サポート窓口までお問い合わせください。

電源 OFF と再起動

CL3884NW の電源を切る必要がある場合は、製品本体の電源を入れる前に下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 製品に接続されたコンピューターをすべてシャットダウンしてください。
2. 製品に接続された電源ケーブルを AC 電源から外してください。
3. 10 秒ほど経過したら、手順 2 で取り外した電源ケーブルを再度 AC 電源に接続してください。
4. 製品が起動したら、接続されているコンピューターの電源を入れてください。

デフォルト設定のリストア

CL3884NW の製品本体をリセットしデフォルト設定に戻すには、OSD メニューで「**Reset to Default**」(デフォルト値にリセット)の項目を「**Yes**」に設定してください。

付録

製品仕様

機能	CL3884NW
コンピューター接続数	
ダイレクト	4
最大	16(カスケード接続)
ポート選択	OSD、ホットキー、プッシュボタン、RS-232C コマンド
コネクター	
KVM ポート	モニター:HDMI メス×4(Black) キーボード/マウス:USB Type-B メス×4(Black) スピーカー:3.5mm ステレオミニジャック メス×4(Green)
電源	IEC 60320/C14×1
シリアル	RJ-45 メス×1
セカンドコンソールポート	モニター:HDMI メス×1(Black) キーボード/マウス:USB Type-A メス×2(Black) スピーカー:3.5mm ステレオミニジャック メス×1(Green)
USB ポート	USB Type-A メス×1(フロント側)
スイッチ	
ポート選択	プッシュボタン×4
マルチビューモード	プッシュボタン×5
LCD/セカンドディスプレイモード	プッシュボタン×3
リセット	ピンホール型スイッチ×1
ファームウェアアップグレード	スライドスイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1
LCD 調節	プッシュボタン×4
LCD 電源	LED プッシュボタン×1
LED	
電源	1(Dark Green)
Lock	Num Lock×1(Green) Caps Lock×1(Green) Scroll Lock×1(Green)

(表は次のページに続きます)

機能	CL3884NW
LED ライト	LED ライト×1
エミュレーション	
キーボード / マウス	USB
ビデオ	
入力ビデオ解像度	1920×1080@60Hz
セカンドコンソール	1920×1080@60Hz
パネル仕様	
画面サイズ	18.5 インチ TFT-LCD
解像度	1920×1080@60Hz
応答時間	20 ms
視野角	178 ° (水平)、178 ° (垂直)
対応色	1677 万色
コントラスト比	1000:1
輝度	350 cd/m ²
スキャンインターバル	5、10、15、30、60、90 秒(デフォルト:5 秒)
最大出力電流	AC100～240V、50/60Hz、1A
消費電力	110V:35.2W 220V:35.7W
動作環境	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～85%RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル
レールタイプ	デュアルスライド
重量	11.2 kg
サイズ(W×D×H)	480.6×631.0×42.8mm
ボディサイズ(W×D×H)	449.2×584.0×42.8mm
*ボディサイズはI/Oポート、ハンドル、マウント用ブラケットを除いたサイズです。	

(表は次のページに続きます)

機能	CL3884NW
同梱品	イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング) ×1 KVM ケーブル(USB、HDMI、オーディオ) ×2(1.8m) 延伸ブラケット ×2* 電源ケーブル ×1 クイックスタートガイド ×1
※イージーセットアップラックマウントキットとは併用できません。	

接続表

次の表は、KVM スイッチの台数と、操作可能なコンピューターの最大台数の関係を示したものです。

CL3884NW に互換性のある 4 ポート KVM スイッチを接続した場合

KVM スイッチの台数	コンピューターの台数
1	16

対応 KVM スイッチ

CL3884NW とカスケード接続可能な KVM スイッチの型番は下表のとおりです。

注意: 次の KVM スイッチは別売りです。詳細については、ATEN 販売代理店までお問い合わせください。

拡張方法	メーカー	型番	製品名
カスケード接続	ATEN	CM1164A	USB ハブ搭載 4 ポート USB DVI マルチビュー/オーディオ KVMP スイッチ
		CM1284	USB ハブ搭載 4 ポート USB HDMI マルチビュー KVMP スイッチ

これ以外の互換性のある製品については、弊社 Web サイトで公開されている情報をご参照ください。

OSD の工場出荷時における初期設定一覧

CL3884NW の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
OSD言語	英語
ボタンのロック	無効
ディスプレイB(セカンドコンソール)の状態	ディスプレイA(ローカルコンソール)に従う
スキャンインターバル	5 秒
ログアウトタイムアウト	30 秒(有効)
ビーブ音	Y(有効)
キーボード言語	自動検出
ハードウェアカーソル	有効
HSM	[NumLock][-]
ブロードキャストモード	無効
チャンネル情報	有効
マルチビューモード	クワッド
ツールバーの位置	上部
透明度	無効
オートスキャン	無効
オートスキャンモード	循環
EDIDモード	ディスプレイA(ローカルコンソール)
キーボードエミュレーション	有効
マウスホイールによる切替	無効
電源状態検知機能	有効
ウィンドウフレーム	無効
ローカルコンソール	マルチビュー
セカンドコンソール	カーソルに従う
パスワード保護	有効

トラブルシューティング

操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず、ケーブルが製品本体およびコンピューターの各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

また、これらの問題は、ファームウェアのアップグレードの適用によって解決することがあります。現在お使いのバージョンが最新でない場合は、最新版のファームウェアを適用することを推奨します。詳細については p.135「ファームウェアアップグレードユーティリティ」をご参照ください。

問題	考えられる原因	解決方法
マウス/キーボードが反応しない。	マウス/キーボードのリセットが適切でない。	コンソールポートからキーボード/マウスのケーブルを一旦抜いて、接続しなおしてください。
	製品本体のリセットが必要。	セットアップされたデバイスすべての電源を切ってください(p.20の注意書きを参照)。製品本体の電源も切り、5秒程経過した後、再び電源を入れてください。
USB デバイスが反応しない。	USB ポートのリセットが必要。	本体リアパネルの USB ポートからデバイスの USB ケーブルを一旦抜いて、接続しなおしてください。
	PC または OS が USB 2.0 に対応していない。	CL3884NW は USB 2.0 ハブを内蔵しているため、USB 2.0 非対応の PC や OS には対応していません。
デバイスが認識されない (Windows)。	Windows のタイミング問題。	コンピューターの USB ポートから KVM ケーブルを抜いてから Windows のシステム設定を開き、「不明なデバイス」を削除してください。それから KVM ケーブルを元のように接続すると、Windows はデバイスを認識するようになります。
[Scroll Lock]キーを2度押ししてもポートが切り替わらない。	キーボードが[Scroll Lock]による起動に対応していない。	OSD メニューにある OSD ホットキーを[Ctrl]の2度押しに変更してください。

(表は次のページに続きます)

問題	考えられる原因	解決方法
KVM ケーブルをホットプラグで接続しても、モニターに何も表示されない。	DVI グラフィックカードの中にはホットプラグに対応していないものがあります。	セットアップされたデバイスすべての電源を切つて (p.20 参照) から、CL3884NW の電源を切ってください。KVM ケーブルすべてが正しく接続されていることを確認したら、CL3884NW の電源を入れ、コンピュータの電源を入れてください。
ポートを切り替えてもモニターに何も表示されない。	モニターが新しい、またはセットアップ後に初めて使用する。	ポートをもう一度切り替えて、PC の EDID 情報がモニターに送信されるまで 2 秒以上待機してください。
GUI 接続ウィンドウがフリーズする/接続できない。	CL3884NW のリセットが必要。	KVM リセットを実行するか、最新の CL3884NW ソフトウェアをコンピュータに再インストールしてください。
キーボードから入力した一部の文字が正しく表示されない。	ポートのキーボードレイアウトが合っていない。	ポートのキーボードレイアウト設定が、ご使用のキーボードと合っていません。ご使用のキーボードレイアウトに合うように、CL3884NW 側でポートのキーボードレイアウトを変更してください。
Sun コンピューターを操作するのに、Sun の外部キーボードの特殊キーが使用できない。	Sun キーボードのエミュレーション機能が有効になっていない。	Sun キーボード機能を利用する場合には、Sun キーボードエミュレーション機能 (p.102 参照) を使用してください。
動作に異常が見られる。	製品本体に十分な電力が供給されていない。	製品本体に付属している電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

ファンクションキー一覧

ファンクションキーの起動方法は下表を参考にしてください。

プリセット設定の選択(ファンクションキー)				
プリセット設定	Fn1	Fn2	Fn3	Fn4
クイックアクセス ツールバー (マウス)				
キーボード ホットキー				